



飛騨高山大学(仮称)設立に向けて
～これまでの取り組みの原体験から～

2022年3月4日現在
一般社団法人飛騨高山大学設立基金
代表理事 井上博成



平成元年(1989年)生まれ。現在32歳。高山市出身。東日本大震災をきっかけに地域の新しい価値を感じ、出身地である高山市と京都大学との間で2014年～自然エネルギーに関する研究開始をきっかけに飛騨高山へ戻ようになる。
2021年3月末日にて、**京都大学大学院経済学研究科博士課程 研究指導認定退学(現在、博士論文申請予定)**。
主な研究領域としては**自然資本(特に自然エネルギー)**と**地域金融**。最近は関心があり**水素+モビリティ**も研究・実践中。

当時の担当教官であった植田和弘先生、諸富徹先生、また、池上惇先生らから**理論と実践・対話**がループすることの重要性を学び、自ら**理論(学問)**と**実践(事業)**の往復の日々を過ごす。地域には多様な資本があることに気づき、特に自然資本に着目し取り組んでいる。自然エネルギー(特に木質バイオマス、小水力)を研究⇄実践する中で、小水力では、**飛騨高山小水力発電(株)を設立(2015年)**し各地で小水力の事業化を行うようになる。**(現在、全国にて小水力発電については16事業体の設立に関与)**木質バイオマスを研究・実践する中でエネルギー利用のみならず、木材そのものの利用に高い関心を持ち、**飛騨五木株式会社(2015年)**の立ち上げを行う。また研究テーマでもある地域金融への事業化に高い関心を持っていたことから実家の井上家のグループ内で、管理型信託会社である**すみれ地域信託(株)(2016年)**の設立に関与し、取締役。

現在は、もっぱら高校時代からの夢である、飛騨高山での大学設立に向けて、2024年4月の開校を目指して準備を進めている。
一般社団法人 飛騨高山大学設立基金 代表理事。



－ 2011年3月11日 －

当時、大学4年生になる頃。

大学の設立自体は、高校時代からの夢だったもの、官僚⇒政治家⇒大学設立の流れを描き、国家一種試験を受けるべく、日夜勉学に励んでいました。そんなとき発生した、東日本大震災、福島第一原発事故の二重災害は私自身の価値感に大きな影響を与えました。

地域と都市部との強力な依存関係

トップダウンではなく、ボトムアップの必要性
地域が自ら活動することの重要性

地域経営・地域自治
内発的な持続可能な地域づくり

「理論(研究)と実践(事業)を往復する考え方、これが非常に重要である。」

池上惇氏 京都大学名誉教授

瑞宝中綬章(研究教育・2012年春季)受賞。京都大学博士(経済学)。専門は、人財=文化資本の研究。教育学と経済学の統合を目指す。文化経済学、財政学、現代経済学。人間発達の経済学・固有価値論の研究等。文化政策・まちづくり大学学長 (wikiより引用)



「井上君は地域で自ら事業をやって、関係者に支えてもらいながらお金をためて大学をつくった方が向いているよ。」

植田和弘氏 京都大学名誉教授

専門は環境経済学/工学博士(1983年)経済学博士(1997年)
日本における環境経済学の草分け的存在。
京都大学を日本における「地球環境問題研究」の拠点に育てた
中心的人物。京都大学副学長を歴任。(wikiより引用)



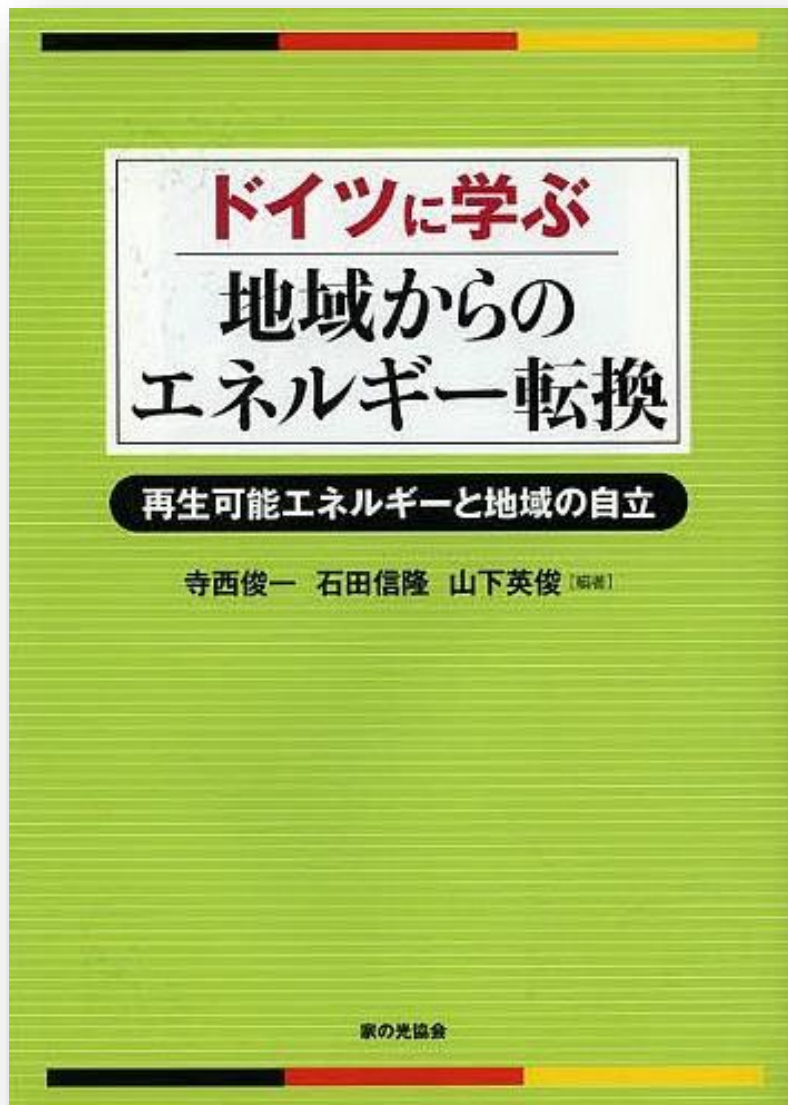
- ・様々な人と交りあって、学びあうことの重要性。海外研究への示唆。
- ・理論(先行研究)をきっちり理解すること、学問に対する姿勢への教え。

諸富徹氏 京都大学大学院経済学研究科

地球環境学堂 教授

京都大学教授。専門は財政学、環境経済。博士(経済学)(京都大学)(1998年)。大阪府生まれ。(wikiより引用)





『ドイツに学ぶ地域からのエネルギー転換』

ドイツ(及び欧州各国)では、当たり前のように、地域が主体となりエネルギーを通じた地域経営・地域自治が成り立っていることに驚く。地域が自立して所得を上げており、自分たちで様々な取り組みを行っている。

文部科学省調査

担当教官であった植田和弘先生と共に、平成25年度の文部科学省産学官連携支援事業委託事業に参画

『ソーシャルイノベーションに関する調査』
地域からのイノベーション事例をドイツやオーストリアなどグローバルに調査実施。

エネルギー/環境分野 (担当)

それ以外にも

- ・地域社会と大学との関係
- ・芸術/文化領域
- ・医療/福祉領域 等の調査に関わる。

木質バイオマスで村を再生した
元村長との写真



『ソーシャルイノベーションを構成する7つの要素』～ 構想から飛躍まで～

- 1 課題を抱えた中から前例なき状態作りへの願望
- 2 少数の信念・熱意あるイノベーターの誕生 / 個人～数人の集団など
- 3 仲間づくり、異なる専門家の集合 / 技術・経営・金融・行政など
- 4 ビジョンの共有と利害関係者への説得
- 5 リスクを取りつつ、小さく始める
- 6 ビジョンのテストサイト立ち上げと成果の実証、スケールアップ
課題発掘と克服、特区的支援策など
- 7 賛同者の輪・支援の輪の拡大 / 物心両面でのベンチャー事業の育成

問題関心 当時の研究テーマが、木質バイオマスエネルギー。
東日本大震災以降 自然エネルギーの拡大の必要性の実感の一方、
日本各地で大型の木質バイオマス発電建設ラッシュ。
また手入れも全くされず、放置された山林に対する方策が皆伐。

着眼点①:ヨーロッパでみた、健全な資源循環とのギャップ。日本国内
でよい木材まで燃していることに疑問を持つ。山主の思いは一体？
(50年にわたる3代かけての投資が燃やすことでいいのか?)

着眼点②:飛騨高山には約350種類の木材樹種が存在。一つ一つに
多様な使い方があることを学ぶ。
しかし飛騨の木材はほとんど使われず外材ばかりが使われている現実。
(ex.家具等) また石油資源や樹脂等に比べて、木材という素材
が圧倒的に利活用(マーケット・イン)されていないことを実感。

●では何をやるのか？(起業に至る部分:約7年前)

①事業承継的な観点(井上家としての側面)

実家のグループ内(次頁)に必要なセクションとして、林業部(伐採)の立ち上げをはじめ、飛騨五木株式会社(地域商社)、すみれ地域信託株式会社(金融)等の立ち上げから構築まで。

②自らの研究の延長で、起業をする選択

大学の研究からの流れでのバイオマスエネルギー事業・小水力事業(=山の価値最大化につながることをイメージできた)に着手。

→結果的に①②から日本各地域で価値化されていない、地域の森(自然資本)を価値化していくことに取り組むようになる。

①事業承継(井上家)での取り組み



ヒノキ

Chamaecyparis obtusa



スギ

Cryptomeria japonica



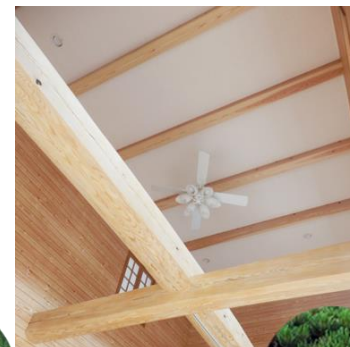
ケヤキ

Zelkova serrata



クリ

Castanea crenata



ヒメコマツ

Pinus pentaphyllata



伊勢神宮や法隆寺などの文化財にも用いられ、日本人とは古来より二千年以上の付き合いがある木です。上品な色艶と香があり、構造材、内装に使用します。

やわらかく温かみのある材料で、住宅だけでなく桶・樽など日用品にも幅広く用いられる身近な素材です。現在、日本で最も資源量が豊富です。

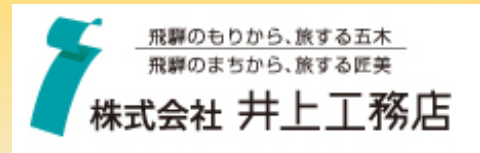
木目に特徴があり格調高く、老舗店舗や相撲部屋などの看板、社寺仏閣に用いられます。乾燥と加工に時間と手間がかかりますが、個性的で表情豊かな材料に仕上がります。

実は食用となり、縄文時代から人の手で植えられてきました。腐りにくく耐久性が高いため、家の土台や水回りに使います。線路の枕木にも使われています。

アカマツやクロマツに比べてクセが少なく、適度な脂分があり粘り気があります。全国的には珍しく、飛騨地方の家で梁などに使われます。

理念:自然資本から地域を変える～ちいきで愛され 旅する五木～
 ビジョン:2035年木材が当たり前にある社会を目指して

フェーズ1 2015年～2019年	フェーズ2 2020年～2024年
ちいきで愛され 重点化計画期	旅する五木 重点化計画期
<ul style="list-style-type: none"> ・高山/岐阜を商圈とする事業の拡大 ・木材総合サイトの構築/運用開始 (hibi-ki メディア・EC事業) ・都市との連携開始(旅する五木へ移行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国へ店舗開発および開発支援 ・不動産×金融×木材 ・関連グループ体と連携し全国を商圈化へ
フェーズ3 2025年～2029年	フェーズ4 2030年～2034年
木材の伐採から加工、設計・建設、不動産、金融、 商社事業等、森林におけるすべての事業領域を推 進できる森林総合企業への成長	<ul style="list-style-type: none"> ・森林を通じたあらゆる商流設計 ・あらゆる生活シーンに森林を訴求できる 企業群への成長



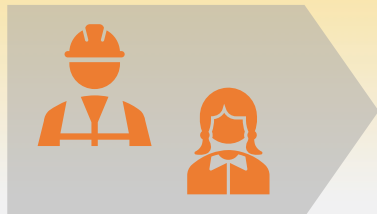
立ち上げ関与は赤字で表示



<p>飛驒五木</p>	<p>株式会社井上工務店 1965年6月(創業54年) 林業・製材・建設 資本金3000万円 飛驒五木株式会社 2015年1月(創業5年) 地域商社 資本金3000万円</p>
<p>すみれ</p>	<p>すみれ地域信託株式会社 2016年6月(創業4年) 資本金1億4000万円 すみれリビング株式会社 2003年10月(創業17年) 資本金1000万円 すみれアセットマネジメント株式会社(投資運用)・すみれ賃貸保証株式会社(賃貸保証) すみれアグリファーム合同会社(農業事業部)</p>
<p>拠点</p>	<p>(本社)岐阜県高山市江名子町、問屋町、下岡本町 (支店)岐阜県各務原市、岐阜市、可児市、養老町、輪之内町、東京都中央区、東京都江東区</p>
<p>各社 代表取締役</p>	<p>株式会社井上工務店 井上正博 飛驒五木株式会社 井上守 すみれリビング株式会社 井上正 すみれ地域信託株式会社 井上正</p>
<p>従業員数</p>	<p>飛驒五木グループ:120名 + すみれグループ:48名 他関連会社 10名 = グループ合計:178名(令和3年4月時点)</p>
<p>グループ会社 SPC等</p>	<p>goboc Base株式会社、各務原学びの森株式会社(代表取締役 井上靖) 他自然エネルギー関係の株式会社・持ち株会社・事業法人・有限責任事業組合(16事業体) 株式会社飛驒高山フットボールクラブ 他</p>

地域商社事業について
～飛騨五木株式会社について～

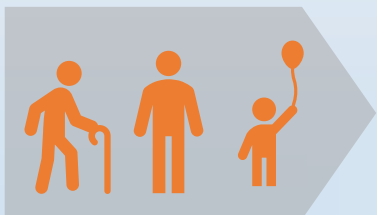
飛 驒 五 木
H I D A G O B O C



働く



育てる



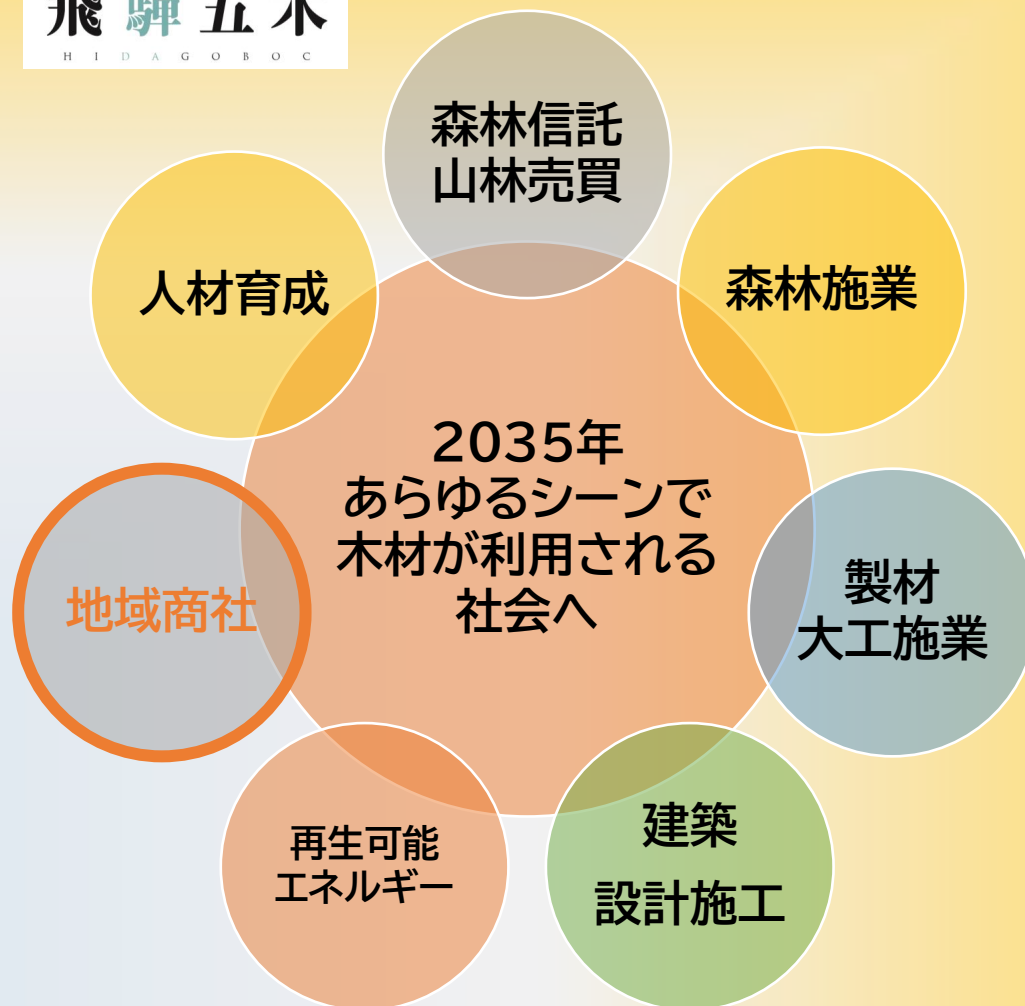
知る



木育施設



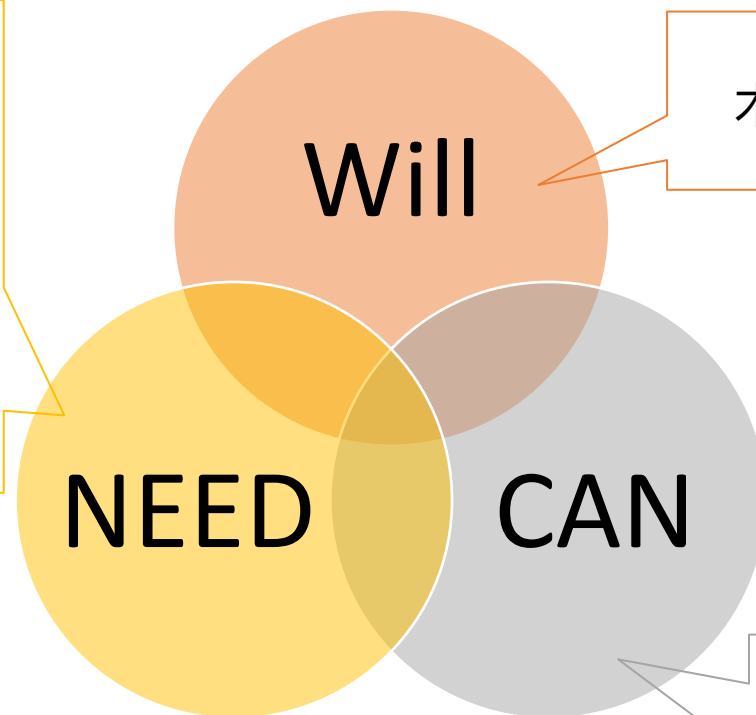
情報サイト・EC
森ではたらくを支援



BtoC(一般消費者)
国産木材の安心感
木のある豊かな暮らし

BtoB(行政・林業関係)
木材を軸にモノ・人・カネの動
きを活発化させたい。

2035年当たり前に
木材のある社会を目指す！
【企業理念・想い】



グループ連携により
木材関連のサービスを
一気貫通でできる！
【スキル、資本力、人脈】

【地域商社】

地域の多くの関係者を巻き込み、木材などの地域の資源をブランド化し、生産・加工から販売などの消費者に届けるまで一貫してプロデュースし、地域内外に販売する組織のことである。

個人向けサービスやその拠点があることは、林業や木材に興味を持つ人を増やす。つまり、交流人口、森林業界への参入人口の増加に貢献できる という意義がある。



日々、木のこと。
hibi-ki.co.jp

そろそろ森で自由に生きよう。人は必ず森に帰ってくるのだから。
時間に捕らわれ、身にまわりつく、しがらみを捨てて。
“いま”を楽しみ、“これから”をつくる人を森は待っている。

明日から何をしてもいい。森で生きていける。
森の中で働くことができる。だけど、多くの人は、
自分の中に森があることに気づいていない。
思い浮かべてほしい、森の景色が「響 hibi-ki」にはある。

私たちの生活では、圧倒的に森の情報が少ない。
「響 hibi-ki」は、「知らない」を「知っている」に変えていく。
日々、木について、発信していく。

「響 hibi-ki」は、太古からわたしたちを待っている、
森に気づくためのメディアです。では、森で会いましょう。

響 hibi-ki 編集部より



響 hibi-ki とは

森で自由な生き方と出会うためのWEBメディア

高速道路を走っていて見える山々にも、新幹線の車窓から見える山並みにも、
そこで働き、暮らし、生きている人がいます。

当たり前すぎて見過ごす景色の中に一歩入ってみると、
個性豊かな木々が息づく森、手入れが生き届いた森、
いろいろな森があって、
そのどれにも、森に「気」を配る人が関わっていることに気づきます。

都会を離れ、あえて山奥で暮らす選択をした人もいます。
その生活は決して新しいものではなく、日本人が昔から生業にしていたものです。

燃料にするための薪や炭づくり。食材となる木の実やきのこ採集。

しかし、そういった生業は減り、自然への興味は薄れ、
いつの間にか、日本の森に「気」を配らなくなりました。
森に「気」を配る人がいないと、どうなるのでしょうか。

日本は国土の7割が森林ですが、世界平均は3割。
他の国からすると日本は森と街の割合が逆転した珍しい国なのです。
それなのに、狭い街に人が集中し、森からは人が消えています。

街の生活で心をすり減らすようなら、森の中で自由に暮らし始めるのもいい。

季節の移ろいをふと肌で感じる瞬間に湧いてくる純粋な感動。
自分で薪を割って火を起こす、その手間に隠れた新鮮な気づき。
そうした小さな出来事の中に、自由に生きていくヒントが落ちています。

そして、「森で自由に生きる」ことの答えは一つではなく、
見つけた人それぞれの中にあります。

見てはいるけど、見えていない。知っているようで知らない。

森との関わりを通じて自分たちが豊かに生きていく道を、
一緒に探っているメディアを目指します。
皆さんにとって「響 hibi-ki」が、自由に生きるヒントとなりますように。



hibi-kiは数々の「連載」で構成されています。日々、森や木のことを意識できるような内容です。



日本人ならではの自然観が現れる山には、たくさんの不思議な民話が伝わっています。本連載では、日本各地の山々に伝わる民話を、日本語はなし調の絵を交えながら、寓話として紹介します。

おいしい森

自ら採取した山菜やきのこなどを生かしながら、料理初心者ならではのアレンジ料理を作り上げ、山の男ならではのワイルドな独自のレシピを提案するもの地、おいしい森の恵みを取り上げていきます。

いばり
民藝
journey



取材のため、日本全国の森を駆け回るhibi-ki編集部。雪が降り積もった雪道を走破することもあれば、カモシカやクマ、謎の仙人と遭遇することも? そんな編集部の日常を徒然なるまま綴ります。

古きも新しきも、その土地の気候や地理、歴史文化、地域情勢などと密接な関係を持つ木の民藝。自然素材と向き合う手仕事の製造現場を一つひとつ訪ね、プロダクトができあがる背景を振り返ります。

森のジズル音

葉が揺れたり、枝が折れたり、森や木は多様な音を奏でています。そうした音をじっくり聞く機会をこの連載でつくってみたい。耳をすませば、音だけでも鮮やかな風景が頭の中に広がるはずです。

WORLD FOREST NEWS

日本や世界の森林にまつわるニュース情報について、専門家等の声を受えながらhibi-kiなりに解説していく、という連載です。ちょっと立ち止まり、一歩踏み込んで考えてみたいと思います。



森や木と関わる仕事は、皆さんの想像以上に多様です。では、具体的にどんな働きがあるのでしょうか。hibi-ki編集部多様な業種・職種に従事する人のもとを訪れ、その生業の実体に迫ります。

FIELD FASHION -Note-

林業や山で活動する人に、ウェアや装束を身につけてもらい、フィールドでの使用感を聞きます。ファッション的な表裏的なアプローチではなく、リアルな現場のフィードバックをレポートします。

杉
杉センセイの
生肉回鑑
知らんけど

生きもの全般を愛してやまない杉センセイの怖いトークが炸裂する連載。人に話したくなる豆知識から、どうでも良い小ネタまで、偏愛ゆえに真偽が定かでない情報が飛び出すこともあるのかなと、

Memento Mori
Books, Cinema, Art, and more.

「森」をテーマにした本(フィクション、ノンフィクション、写真集も含む)や映画を、毎回テーマにそって紹介していきます。読んで、観て、森に日常に思い浮かべてほしいと願っています。

林業NOW

森林面積、木材自給率、林業の従業人口、木材の輸出入...etc. 日本の森林を取り巻く現状について噛み砕いて解説していきます。まだまだ林業のことを知らない編集部ととも学んでいきましょう。

Forest Shutter
森の暮らし

山や森で暮らす人たちの日常生活を切り取る連載です。基本的に36枚連りのフィルムカメラを渡し、住人が自ら撮影して現像、マウンテンライフをレポートします。リアルな「森の暮らし」です。

静かなる革命

森の中でサバイバル生活をしたり、独りキャンプをしたり、密かにブームとなりつつあるシーンを探究。「お金を使わずに生きる方法」を実践している人や活動者、独自の目標で取り上げます。

街と木と人

気がつくや傍らにある「街路樹」や公園の「木」。都市の景観に欠かせない、植えられた木について考察します。日本だけでなく、台北やブエノスアイレスなど、世界の都市にも広がりを見せています。

hibi-kiは、こんな人たちが作っています。



加藤 直徳 (かとう・なおのり)

編集者。鎌倉(山側)在住。NEUTRAL、TRANSIT、ATLANTISなどの雑誌の編集長を経て、現在印刷まで手がける出版社「NEUTRAL COLORS」を主宰。雑誌NEUTRAL COLORS 編集長、hibi-kiはコンセプト作りからDirectorとして参加。各連載も担当する。山は登るより眺めるのが好き。



兵藤 育子 (ひょうどう・いくこ)

海も山も近くにある、山形県酒田市で生まれ育ったライター。山育ちの父に山採りやキノコ採りに連れて行ってもらったのが、自分にとっての森の原風景。主な執筆ジャンルは、旅、映画、本、漫画、人物インタビューなど。写真は熊野古道の大観取道。



田中 菜月 (たなか・なつき)

取材・記事執筆担当。印刷会社で働いていた数年前、ふと森に関わる仕事がしたいと思い立ち林業の学校へ、それ以来どっさり森の沼にハマる。もう抜け出せない。伐木作業者特別教育修了/狩猟免許の更新忘れ.../休日はアイドル、キャンプ、純喫茶巡り、読書。



伊藤 実穂 (いとう・みほ)

小さい頃から絵を描くことが好きで、デザインが学べる学校へ。現在は森のわくわくの森の施設を中心にロゴやチラシ等を作成しています。hibi-kiではサムネデザインを担当。自然を近くで感じられる職場で日々リフレッシュして過ごしています。紅葉/読書/旅行。



渡邊 杏奈 (わたなべ・あんな)

東京で生まれ育ち、木や森への興味はゼロ。だったが、ひょんなことからhibi-kiに携わり、「木や森と関わる暮らし」もちょっと良いかもと思いつける。隅々までが得意/ミニマリスト/本屋に長時間でも居られる/良い感じのカフェを探して2駅より多く。



高岸 昌平 (たかぎし・しょうへい)

インターン生。さいたま生まれさいたま育ち。本村農林の現場のことが知りたくて大学を休学中。一人旅が好きでロードバイクのついでこども旅をする。旅をする中で自然の中を走り回り、森林の魅力と現場の方々のやさしさに触れる。47都道府県制覇が目標!

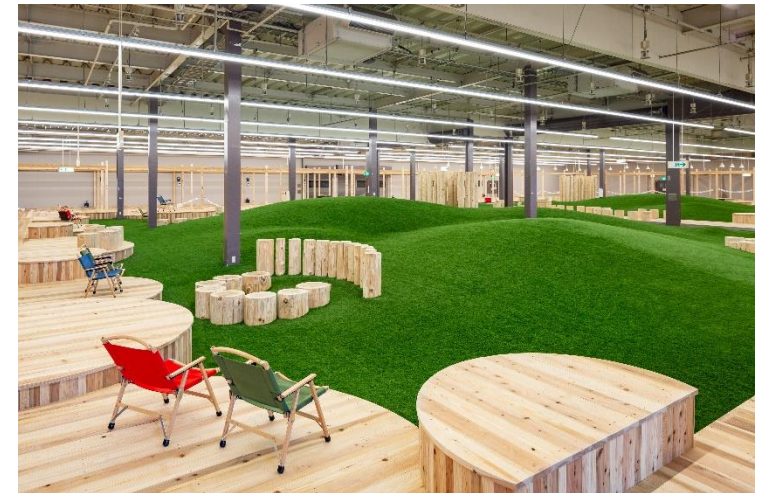
運営元: 飛騨五木株式会社

グッドライフアワード2019
環境アート&デザイン賞受賞!



グッドライフアワードとは・・・
環境省主宰の持続可能な社会の実現のため、一人一人が現在のライフスタイルを見つめ直すきっかけを作り、ライフスタイルイノベーションの創出やパートナーシップの強化を目指し、「環境と社会により暮らし」やこれを支える地道な取組(ボランティア活動、サービス・技術など)を募集・応援する事業

「林業」×「子育て」に挑む木育施設
「森のわくわくの庭」





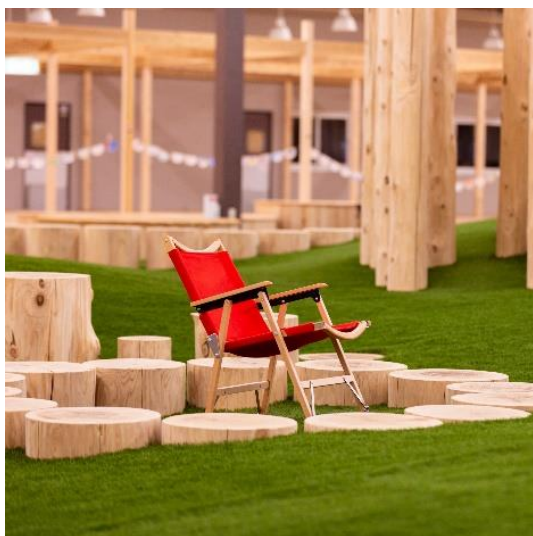
木材生産地の見える化



木の多様な使い方



玩具はすべて国産木材



大人もくつろげる

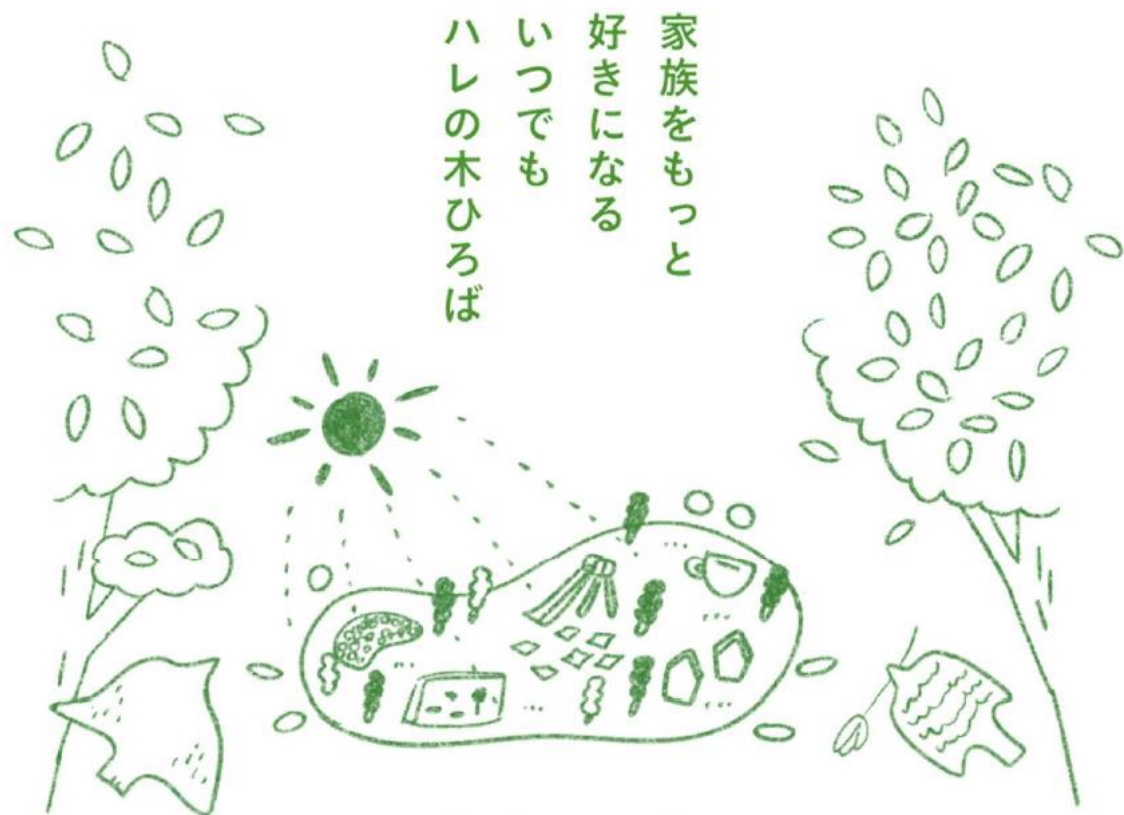


遊び方を制限しない



創意工夫ができる遊び

**森のわくわくの庭**
moriwaku no niwa



~~~~ moriwaku no niwa ~~~~

森のわくわくの庭は、まるで“自分の庭”のように思い切り遊んでほしいという思いから生まれた、2つの木育施設です。木の香り漂う空間の中で、ご家族でわくわくに溢れた時間を過ごし、「また来ようね」と言い合いたくなるような場所づくりを目指しています。ここでの時間を通して「木っていいなあ、好きだなあ」という気持ちになってもらえたら、とても嬉しいです。



木材生産地の見える化

広い芝生の上を自由に走り回り、無垢の丸太に触れることができる。47都道府県から集めた47本の柱も点在。



森のわくわくの庭

moriwaku no niwa

2020年7月  
オープン

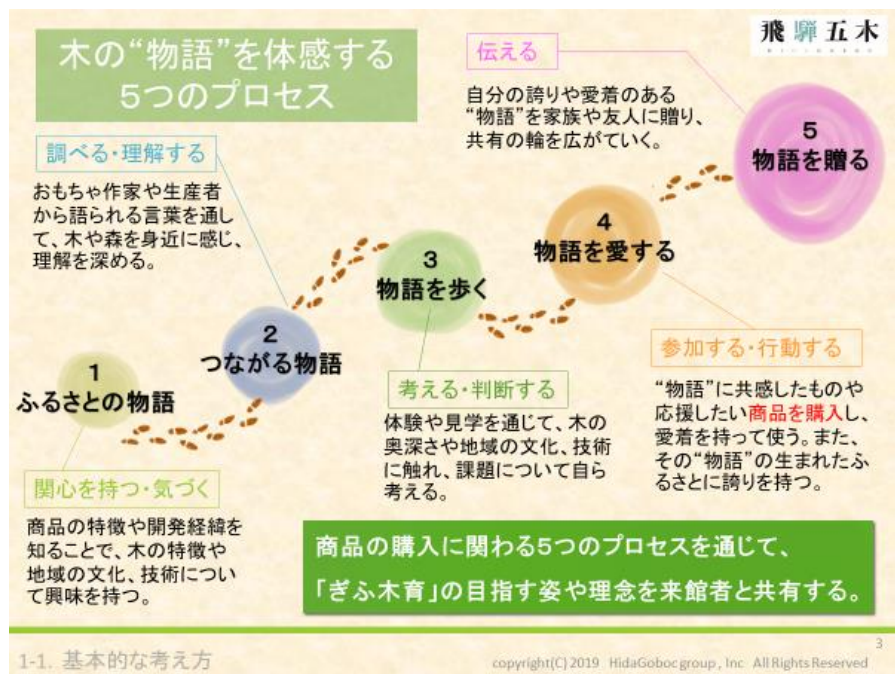
岐阜県が2020年7月にオープンした木育施設内の  
ショップとしてオープン。国産木材だけにこだわり、木  
のおもちゃや雑貨を販売。ギフト需要が増えている。

樂  
hibi-ki

STORE



2020年7月18日にオープンした「ぎふ木遊館(竹下景子名誉館長)」は、岐阜県が誇る「木と共生する文化」を次世代につないでいくために、幅広い年齢層の方が森や木に親しみ、森林とのつながりを体験できる総合的な木育拠点として設立。弊社はその施設内に設置される玩具の選定やショップコンセプト立案から運営。木の商品を通じて**岐阜だけでなく全国の産地の“ふるさとの物語”を体感**することを目的(総事業費7億円)



2021年3月  
オープン

2021年3月、岐阜県各務原市との官民連携事業として、3店舗目になる「遊び創造labo」をオープン。より木材を使った、よりダイナミックな遊び場を提案。

遊び創造labo 

## 取り組み

## 岐阜県各務原市との連携によるPark-PFI事業

岐阜県各務原市にある「学びの森」は、岐阜大学の農場跡地につくられた緑豊かな公園。その公園をより賑わいのある場にしていこうと、各務原市では“P-PFI制度※”を活用して整備を進めることが決定。そして、これらの整備を担う代表事業者として、弊社グループを選定いただき、施設のコンセプトの立案から施設の建築設計、地域のキーパーソンの取りまとめ経営計画の遂行している。**2021年3月27日OPEN**。総事業費約3億5千万円

※グループで設立した各務原学びの森株式会社(2020年4月1日設立)が主体

※P-PFI制度とは、飲食店、売店等の公園利用客の利便の向上に資する施設の設置と、それら施設から生ずる収益を活用して公園施設の改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと



2021年3月5日

各位

株式会社 北陸銀行

Park-PFI事業  
「学びの森官民連携型賑わい拠点創出事業」に対する融資実行について  
～ Park-PFI 事業向け融資当行第1号 ～

株式会社北陸銀行（頭取 庵 栄伸）は、岐阜県各務原市より公募があった Park-PFI 事業（※1）である「学びの森官民連携型賑わい拠点創出事業」（以下「本 Park-PFI 事業」）を受託するために設立された SPC（※2）である、各務原学びの森株式会社（本社：岐阜県各務原市、代表取締役 井上 靖）に対してのご融資を実行いたしました。

本 Park-PFI 事業は株式会社井上工務店（本社：岐阜県高山市、代表取締役 井上 正博）がスポンサーとして設立した各務原学びの森株式会社が各務原市との基本協定に基づき、公募対象公園施設、特定公園施設の設置・運営・維持を行うものです。施設運営にあたっては、飛騨五木株式会社（本社：岐阜県高山市、代表取締役 井上 守）が実施いたします。

公募対象公園施設としまして、岐阜県産木材をふんだんに使用した施設 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE を設置しております。

当該施設は子供の遊び場を中核とした全天候型屋内施設であり、公園利用者の利便性向上に貢献することができるものです。

### 記

#### 1. ご融資の内容

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| ご融資先  | 各務原学びの森株式会社                    |
| ご融資日  | 2021年3月1日                      |
| 形式    | タームローン（パイラテラル方式）               |
| 融資金額  | 255,000,000円                   |
| 融資期間  | 15年                            |
| ご融資対象 | 本 Park-PFI 事業における公募対象公園施設の建築資金 |



- ・ 2021年ウッドデザイン賞ハートフル部門 優秀賞（林野庁長官賞）
- ・ 令和3年度木材利用優良施設コンクール 審査委員会特別賞
- ・ 第15回キッズデザイン賞 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門
- ・ 屋根のある建築作品コンテスト2021 非住宅部門グランプリ



おでかけ情報量  
日本最大級!  
スポット 87,226件

# 全施設ランキング!

## 今週の岐阜県の家族でおでかけ人気ランキング

2021年8月12日～2021年8月18日

|               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 週間おでかけ人気ランキング | 月間おでかけ人気ランキング | 年間おでかけ人気ランキング |
|---------------|---------------|---------------|

| 1位-10位                                                                                                     | 11位-20位 | 21位-30位 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| → 地域変更 東海   岐阜県   静岡県   愛知県   三重県                                                                          |         |         |
| → エリア変更 尾張・犬山・小牧・一宮・瀬戸・各務原   岐阜・大垣・関ヶ原・養老   恵那・多治見・可児・美濃加茂・中津川   下呂・飛騨・高山・奥飛騨周辺   郡上・美濃・関   木曽路・木曽周辺   白川郷 |         |         |
| → 条件変更 すべての施設   屋内施設   屋外施設                                                                                |         |         |
| 集計期間：2021年8月12日～2021年8月18日   更新日：2021年8月20日                                                                |         |         |



### 森のわくわくの庭 輪之内店

行きたい! 630



《時間無制限で600円》広大な芝生の上で、のびのび遊べる“全天候型”施設!

幼児 ★★★★★ 4.4 小学生 ★★★★★ 3.3 [口コミ7件]

岐阜県安八郡輪之内町四郷280番1 [地図](#)

新型コロナ対策実施

利用者満足 注目度UP アクセス急上昇



### 遊び創造labo

行きたい! 105



遊びの楽しさを見つける!木の香りに癒される全天候型の屋内施設

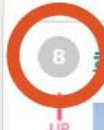
幼児 ★★★★★ 4.0 小学生 ★★★★★ 3.0 [口コミ1件]

岐阜県各務原市那加雲雀町30-1 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE内

[地図](#)

新型コロナ対策実施

利用者満足 注目度UP アクセス急上昇



### ふ木遊館

行きたい! 80



木のオモチャや遊びがいっぱい!「森林県」岐阜の魅力を感じ、感性を育める遊び場

幼児 ★★★★★ 3.1 小学生 ★★★★★ 3.2 [口コミ3件]

岐阜県岐阜市学園町2-33 [地図](#)

新型コロナ対策実施

利用者満足 注目度UP アクセス急上昇



### 森のわくわくの庭 養老店

行きたい! 346



《時間無制限で600円》赤ちゃんも大人も木の香りに癒される“全天候型”木育施設!

幼児 ★★★★★ 4.0 小学生 ★★★★★ 3.5 [口コミ1件]

岐阜県養老郡養老町宇田582番1 イオンタウン養老ショッピングセンター内

[地図](#)

新型コロナ対策実施

利用者満足 注目度UP アクセス急上昇

2020年2月29日にオープンした**設計・施工を担当(運営は株冒険の森。)**。森林でのパークだけでなく、自然の立木が少ない街(マチ)に、簡単に設置できる構造で、森林と同じように楽しめる遊具(モリ)を。そんな思いで開発した「マチモリ」施設の第2号店です。室内なので雨の日も同じように楽しめます。1階部分では、木のぬくもり、優しさにふれ、感性を育んでくれる木育遊具空間。2階部分では、森と同じようにアドベンチャー体験が楽しめ、ジップラインも！施設のある「トリアス」にはショッピングモールをはじめ、動物園や映画館もあり、1日通して楽しんで頂けます。



木育施設をつくる ≠ 箱モノを建築・施工する

= 「サービス」をデザインし続ける

木育施設における  
サービスとは…

充実

子育て世代に非日常を提供する  
「のこぎり体験教室を開催する」  
「ハンモックにのって家族でのんびりする」  
「インスタ映え写真が家族で撮れる」

便利

子育て世代の時間や手間を減らす  
「親がいても、子供だけで楽しめる遊び場」  
「子供用のお菓子が売っている」  
「おむつを持ち帰るゴミ袋が置いてある」

安心・安全

子育て世代のストレスや不安を解消する  
「落ち着ける授乳室が欲しい。」  
「防犯カメラが欲しい」  
「熱中症を気にせず遊ばせたい」

プロデュースであり、ブランド化



工務店の役割を超えて、「木材のある社会」というニーズに応えたい。



②研究の延長で事業化した取り組み

小水力発電事業について

～自らの研究の延長で、起業・新規事業化した中身～

◇トヨタ財団 2014年度国際助成プログラム(2014年11月~2年間)  
再生可能エネルギーによる地域再生に向けた地域の価値創出、ビジネスモデル、その東南アジアへの移転可能性

代表:京都大学 中山琢夫先生、諸富徹先生

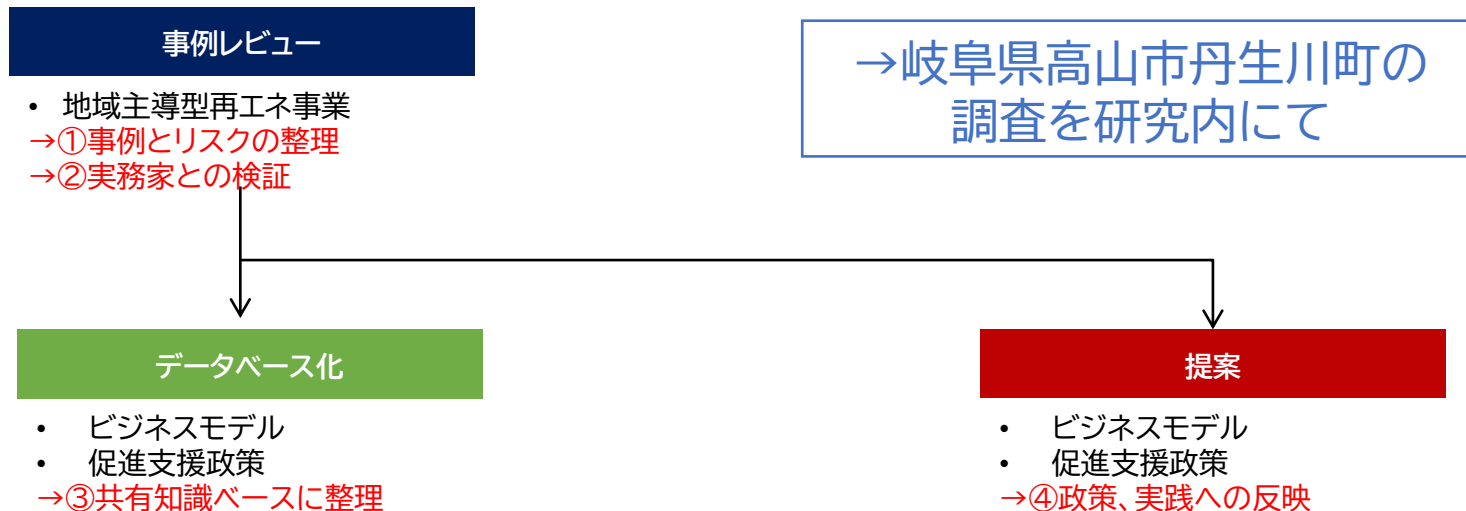
- (地域主導型の) **ビジネスモデルPJ** (リーダー : ISEP山下紀明氏)

※他にも**太陽光**、**風力**、**地熱**についても研究

◇担当部会

-木質バイオマス部会 -小水力部会 事務局 井上博成

◇研究の目的



**地域を核とした小水力発電事業(地域主導型事業)** = 地域の主体が自ら事業費の過半を出資し、意思決定を行い、再生可能エネルギー事業を実施するものと定義

地域自治の観点からどのように地域が利益を得ることができるのかを、地域が主体か**(地域主導型)**、外部との協働なのか**(協働型)**、外部が主導するのか**(外部主導型)**否かにより地域の参加の度合いと利益が異なる。特に小水力発電事業においては地域主導型での事業開始が重要と指摘されている。

1. 地域が事業に出資し意思決定することで利益の大半を得る「地域主導型」を拡大する



2. 「外部主導型」で行われようとする事業は、計画段階から地域が関わる「協働型」へ誘導する



5. 外部事業者と地域の協働  
 ⇒ 農山漁村再生可能エネルギー法の活用  
 ⇒ 市町村の条例策定

(図表1)地域主導型事業の位置づけ

第 7519号

平成 28年 11月28日(月)

(昭和23年 6月29日第3種郵便物認可)



この発電所は来年六月  
 社の社長・井上博成  
 さん(西町出身)は、  
 京都大学大学院で自然エ  
 ネルギと地域ファイナ  
 ンスを専攻する現役の大  
 学院生。地元高山に環境  
 系の総合大学をつくるこ  
 とを目標としており、そ  
 の資金を地域資源を活用  
 した事業で蓄えようと、  
 昨年十二月に同社を設立  
 した。

飛騨高山小水力発電(江名子町)が二十五  
 日、丹生川町久手の久手川に整備する小水力発  
 電施設「久手川朴ノ木大橋砂防堰堤発電所」の  
 地鎮祭を執り行い、地元町内会や工事関係者ら  
 二十二人が出席した。

小水力発電所整備し高山に大学を  
 現役大学院生が社長の会社が丹生川町に



岐阜県高山市民時報社  
 高山市桐生町 3-122-1  
 TEL 0577 0001 (代)  
 FAX 0577 1011  
 購読料 月600円+税  
 毎週月・水・金曜日発行

お 12  
 Xmas  
 上之

末の完成予定で、年間発  
 電量は七十二万キロワット  
 時。発電した電気は中部  
 電力へ売電し、収益は大  
 学創設のための基金を立  
 ち上げて寄付するとい  
 う。

井上さんは「若い人が  
 生まれ育った高山に残れ  
 るよう『知の拠点』をつ  
 くるのが昔からの夢で  
 した。早いスピードで着  
 工までたどり着けたのも、  
 多くの人に賛同を頂  
 けたおかげです」と話  
 していた(上写真)。

同社は引き続き第一、  
 第三発電所の整備も進め  
 るという。

研究を通じて、飛騨高山小水力発電株式会社を設立。

代表取締役:井上博成      取締役:宮前勝様

資本金 8000万円    総事業費7億1千万円

地域の皆様のご協力を頂き、事業開始

地元の金融機関様の融資(ノンリコースローン)により4台建設

発電機4台にて、住宅にすると約640軒分の電力量を生み出す。

# 小水力発電@岐阜県高山市内 4台の写真

住宅にすると約100軒分の電力量



住宅にすると約100軒分の電力量



住宅にすると約400軒分の電力量



住宅にすると約40軒分の電力量



以外にも・・・飛騨エリア周辺で完成した発電所



●岐阜県高山市塩屋町発電所



●岐阜県飛騨市宮川町発電所

今年度から来年度中に本エリアでは、追加で**1発電所の着工済・3発電所工事着工**を目指しています。



2021年12月28日

各位



### 小水力発電事業向けプロジェクトファイナンス案件の組成について

株式会社十六銀行（頭取 石黒 明秀、以下「当行」といいます。）は、阿多野郷・野麦小水力発電株式会社（以下「同社」といいます。）が手掛ける小水力発電事業（以下「本事業」といいます。）向けプロジェクトファイナンスに対し、アレンジャーとして協調融資（シンジケート・ローン）を組成いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

本事業では、同社が岐阜県高山市高根町阿多野郷および野麦に小水力発電所を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度に基づき、向こう20年間にわたって中部電力パワーグリッド株式会社に売電いたします。

今回のプロジェクトファイナンスは、高山市内に営業拠点を置く金融機関4行庫によりシンジケート団を組成しています。

当行は、ともに地域の未来を創造し、ともに持続的な成長を遂げる総合金融グループとして、今後も「十六フィナンシャルグループSDGs宣言」に基づき、お客さまの要望に多様なサービスでお応えし、地域の持続可能な成長と発展に貢献してまいります。

## 記

### 1. 同社の概要

|     |                  |
|-----|------------------|
| 商号  | 阿多野郷・野麦小水力発電株式会社 |
| 所在地 | 岐阜県高山市西町71番地     |
| 代表者 | 代表取締役 井上 博成      |

### 2. 本事業の概要

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 目的     | 小水力発電（※詳細後述）                |
| 事業地    | ①岐阜県高山市高根町阿多野郷 ②岐阜県高山市高根町野麦 |
| 発電規模   | 合計895kw（①699.4kw ②195.6kw）  |
| 売電開始時期 | 2023年12月末（予定）               |

### 3. プロジェクトファイナンスの概要

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 組成金額   | 12億2,000万円                    |
| アレンジャー | 当行                            |
| エージェント | 当行                            |
| 参加金融機関 | 当行、高山信用金庫、株式会社大垣共立銀行、株式会社北陸銀行 |
| 契約締結日  | 2021年12月28日                   |



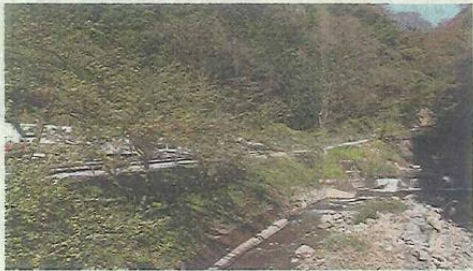
- ・京都大学の同級生のアレックス氏と会社(糸島小水力発電株式会社)を設立。
- ・京都大学の一部資金提供も頂き、**1基完成**。2020年2月15日～売電開始予定。
- ・今後、福岡県などで**3基追加**で発電所を建設する計画を推進中。

●プロジェクトベースドリサーチ(PBR):

学術研究成果の社会実装と、社会実装を通じて得られた知見の学術研究への反映を目的としたプロジェクト(事業)をもとにしたリサーチ(研究)再生可能エネルギーの普及促進に関する学術研究実施と社会実装を行うことを目的としたPBRとして、京都大学大学院思修館のプロジェクトベースドリサーチ(PBR)として、2016年7月に承認され、助成金を受け2016年9月に糸島小水力発電(株)を設立。



# 国内初・信託方式 小水力発電



小水力発電所が建設される笹川。左側のテントが発電所が建設地＝朝日町笹川で

朝日町笹川地区で創業した建設会社「深松組」（仙台市）は、信託会社「すみれ地域信託」（岐阜県高山市）と笹川沿いに小水力発電所を建設し、売電の収益を地区の簡易水道の改良、保全に充てる。信託方式による国内初の取り組みで、二十六日、発電所建設と簡易水道改良の起工式が現地であった。

## 朝日・笹川で起工 23年売電開始

### 収益で簡易水道を改良保全

笹川地区は、人口三百四十二人の山あいの集落。この十年で人口が四分の三になるなど、過疎化が進んでいる。簡易水道は一九五九（昭和三十四）年に開設し、八三年に大改修されたが、近年は老朽化。改良工事費の約三億円を地区で捻出する（）とは困難になっていた。

深松組の深松努社長が自社の源流である地域のインフラを持統可能な形で守る枠組みについて、すみれ地域信託の井上正会長兼社長らに相談。深松組から委託を受けて同信託が発電事業と水道施設改良の費用負担を一括して担うことにした。信託方式の利点は万一、両社が破産しても倒産隔離機能で地区が不利を被ることもないこと。小水力発電所は建設地の約一キロ上流から取水し、約九十メートルの落差を利用して水車を回して発電し、北陸電力に売電する。最

大出力は一九六・八瓩。再生可能エネルギー固定価格買い取り制度によって年間四千万～五千万円の収益になり、信託期間の二十年間でほぼ発電所建設、簡易水道改良の費用が得られる見通し。水力発電管理業務を地元

に発注することで新たな地域での雇用も見込めるといふ。

発電所は二〇二三年六月から売電を開始。簡易水道改良工事は二五年三月末に完成する。

起工式で井上正会長兼社長は「出身地域に恩返ししたいという深松社長の考えを信託で実現できるのは誇り。住民がこれからも安心して地区に住めるよう協力していきたい」とあいさつ。深松社長は「町は水道設備更新の補助率を上げ、地域住民らが発電設備の用地について協力してくれたから実現できた」と話した。



## ●富山県朝日町笹川

信託方式を活用した小水力発電事業。その収益で地区の簡易水道を改良し、保全するスキームの組成を実行。

水道事業費の2億7500万円分を、発電所の収益で賄う計画。  
※当初、水道資金を地域ではまなかうことができずにいた状態だった。

地区出身の深松組様の熱い思いに打たれ、組成を計画。

- 総事業費は約8億円弱
- 2021年4月地鎮祭→5月着工
- 2023年の売電開始
- 2024年の水道設備利用を目指す。

富山県 関係  
区（ほろ  
祭、起工  
日町高橋  
係者が  
折った。  
同事業  
高岡市  
震  
高岡市  
物産保  
ある市所  
耐震性が  
レンガの  
奥が南

全国各地に発電所を計画中！

※調査中箇所も含む。

主には、木質バイオマス・小水力発電に取り組む。

過去、太陽光発電所も建設。

小水力は全体で16の法人に関与。

これらの事業化も通じて、仮説を立てる中で、論文の執筆を行っています。



## 【研究テーマ】

研究テーマは、自然資本(自然エネルギー)と地域金融

【修論】 木質バイオマスの地域ファイナンスとリスク評価

【博論:予定】 執筆中:2022年度中目標:博士号の取得を目指しています。

論文タイトル(仮):日本における地域を核とした小水力発電に係る重要要因の定義と事業主体と地域金融機関双方からの重み付け ～重み付けからみえる地域ファイナンスにおける障壁と課題に対する対策～

## 【学会誌への投稿論文】

- ①「電力自由化の下での地域分散型電力システム-ドイツにおける再生可能エネルギーと配電網の自治体による再公有化を中心に-」中山琢夫・山東晃大・井上博成・諸富 徹 『財政と公共政策』第36巻第1巻 119-128頁(2014)査読有
- ②「自然資本と生態系への投資を促す債権の可能性」井上博成・山口臨太郎『環境経済・政策研究』Vol.9No.2 pp.12-19(2016)
- ③「日本における小水力発電の普及に係る障壁と課題—事業主体の視点から」井上博成・Alexander KEELEY『日本エネルギー学会』Vol.97 pp.245-251(2018)

## 【企画出版】

- ①諸富徹監修/若手再エネ実践者研究会編著(2015)『エネルギーの世界を変える。22人の仕事～事業・政策・研究の先駆者たち』学芸出版社 発行
- ②諸富徹(2019)『入門 地域付加価値分析』発行 第7章執筆

これまでの自身の  
取り組み

- ・ 「自然資本」という概念を実家のグループにおける理念に据え、活動を実施(約7年)
- ・ 小水力発電/バイオマスエネルギーをはじめ、森林の地域商社事業、金融業構築等を推進
- ・ 地域における起業的発想、事業承継(井上家)の重要性、やりがいを実感

## 1、地域にはまだ価値化されていない・見つけられていない地域資本があり、それらを通じて全国が繋がりがあ、意見交換していくことが重要

人口は減少する悲観的なシナリオばかりが描かれ、経済における成長には限界があることを認識しつつも、地域における様々な課題に対しては、「それぞれが知恵を使っている」という実感は薄い。全国各地の地域が智慧を出し合い、より地域課題にコミットしていく場づくりが重要。

## 2、理論は実践における一つの道しるべになりうる。またそれらを補完するのが対話や議論

巨人の肩の上にいる、ではないが、先人の解釈や理解というのは、実践を行う上での一つの重要な示唆となる。理論と実践双方の往復により、新しい価値を創造できる可能性がある。また、教育拠点を通じて出会う人材は利害関係を超えて、共存していけられる可能性が高く、相手の文脈を理解する対話や、それらを通じて行う議論は【大学教育】という場がもたらす重要な要素となる。

## 3、国内のみにとどまらず、それぞれの地域課題に対する世界レベルの交流も必要

自分自身も自然エネルギーをはじめ、林業の世界、金融の世界を学ぶ中でも、世界の地域の事例を参照し、取り組みに生かしてきた。地域課題への取り組み方も含めて海外視点を日本各地の地域にフィードバックしていくことは重要な示唆となりうる。

日本全国11の学びの地域拠点を整備予定

2024年4月開校を目指す

# HIDA TAKAYAMA UNIVERSITY

仮称 飛騨高山大学

大学名変更予定  
～2022年3月26日付～

Phase.1 2020年～2023年

## 飛騨高山大学計画

飛騨高山を核とし  
日本の各地域と繋がる  
基盤づくり

- 全日制整備(共創学部)
- 夢ある組織づくり/カリキュラムづくり
- 2024年4月の開校に向けた許認可取得
- 「飛騨高山大学20年ビジョン」に向けた準備

|            |                                                           |
|------------|-----------------------------------------------------------|
| 2019年11月2日 | <b>検討委員会発足（第1回開催）</b><br>21名の多様なジャンルの大学教授・行政・NPO・事業者等で構成。 |
| 2020年1月11日 | <b>第2回検討委員会開催</b>                                         |
| ⋮          |                                                           |
| 2020年6月9日  | <b>飛騨市様との協定締結</b> ～大学設置に関する包括支援協定～                        |
| 2020年10月9日 | <b>大学組織基盤の構築開始</b><br>関係する皆さまとの本格的な協議を開始                  |

# 大学設置に関する包括支援協力協定

【締結日】 令和2年6月9日(火) 【締結者】 飛騨市・一般社団法人飛騨高山大学設立基金  
飛騨市における私立大学「飛騨高山大学(仮称)」の立地に向け、飛騨市が支援を目的とするもの  
飛騨市様が掲げる様々な政策との合致することを確認。

- (1) 保育園から高校までの一貫した課題解決型人材の育成(飛騨市学園構想)
- (2) 地域資源の掘り起しと活用





## 組織形態

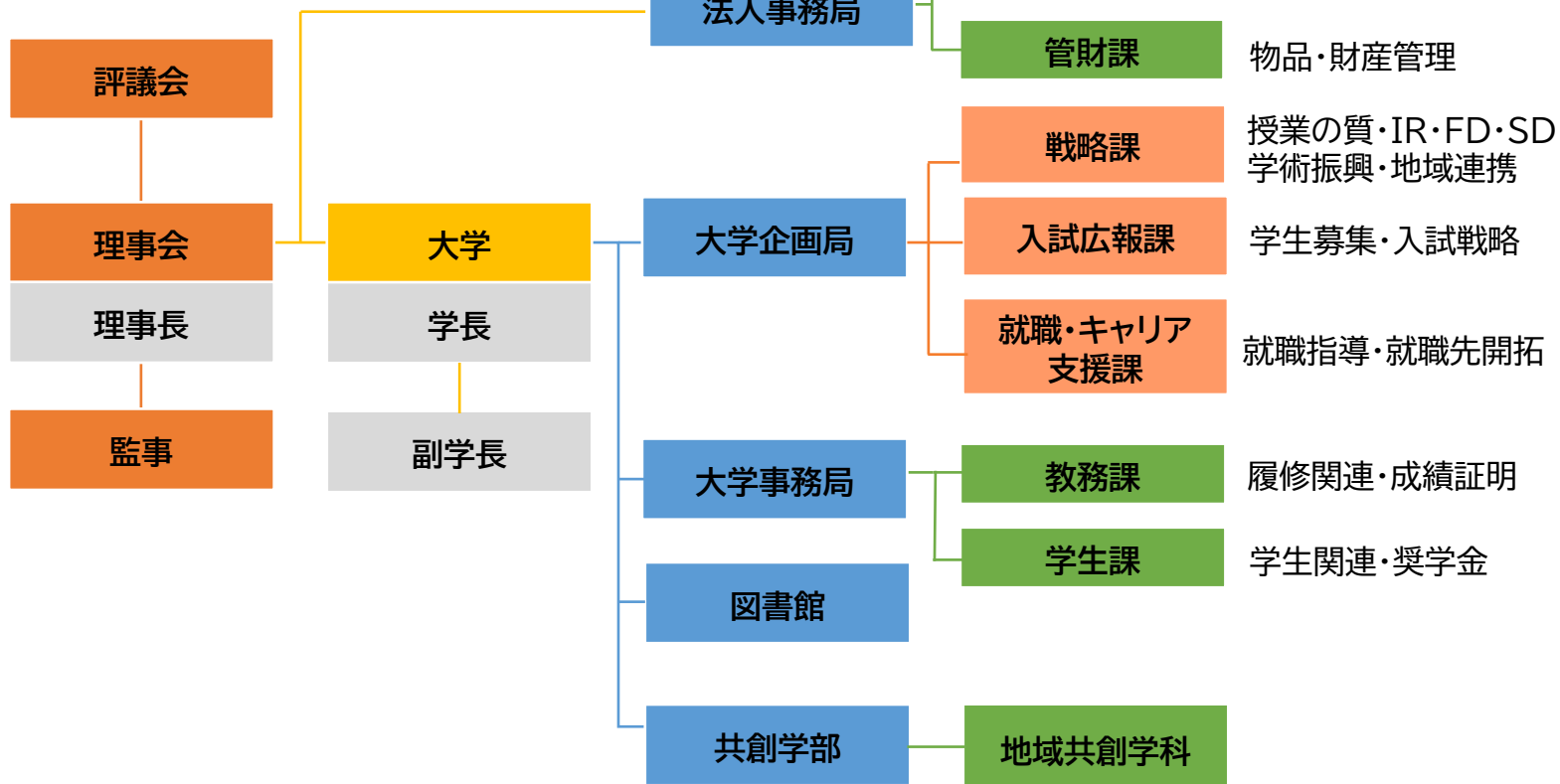
|                                           |                 |
|-------------------------------------------|-----------------|
| 学長                                        | 1名              |
| 理事<br>(理事長・学長含む)                          | 7名              |
| 評議員 ※法改正で変更可能性有                           | ~15名            |
| 監事                                        | 3名              |
| 教員 常勤21名 + $\alpha$ (特任等)<br>(教授・助教授・講師等) | 21 + $\alpha$ 名 |
| 事務職員(最大)                                  | 20~60名          |

## 学長の要件

学長となることのできる者は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有すると認められる者

大学組織メンバーも個を磨き、学生にとって善き縁(作用)となれるよう努める。

## 組織図イメージ 今後変更有





## 飛騨高山大学 学長候補 / 宮田 裕章

1978年生まれ。慶応義塾大学 医学部教授。

2003年東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了。同分野保健学博士(論文)。

早稲田大学人間科学学術院助手、東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座助教を経て、2009年4月東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座 准教授、2014年4月同教授(2015年5月より非常勤)、2015年5月より慶応義塾大学医学部医療政策・管理学教室 教授、2020年12月より大阪大学医学部 招へい教授。

### 【社会的活動】

2025日本万国博覧会テーマ事業プロデューサー。うめきた2期アドバイザー。

厚生労働省 保健医療2035策定懇談会構成員、

厚生労働省 データヘルス改革推進本部アドバイザーリーボードメンバー。

新潟県 健康情報管理監。神奈川県 Value Co-Creation Officer。

国際文化会館 理事。The Commons Project 評議員、日本代表。

会津若松市スーパーシティ構想アドバイザー。

専門はデータサイエンス、科学方法論、Value Co-Creation。

データサイエンスなどの科学を駆使して社会変革に挑戦し、現実をより良くするための貢献を軸に研究活動を行う。専門医制度と連携し5000病院が参加するNational Clinical Database、LINEと厚労省の新型コロナ全国調査など、医学領域以外も含む様々な実践に取り組むと同時に、経団連や世界経済フォーラムと連携して新しい社会ビジョンを描く。宮田が共創する社会ビジョンの1つは、いのちを響き合わせて多様な社会を創り、その世界を共に体験する中で一人ひとりが輝くという“共鳴する社会”である。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
代表理事 / 井上 博成

平成元年(1989年)生まれ。岐阜県高山市出身。東日本大震災をきっかけに地域の新しい価値を感じ、出身地である高山市と京都大学との間で2014年～自然エネルギーに関する研究開始をきっかけに高山市へ戻るようになる。京都大学大学院経済学研究科博士課程研究指導認定退学。主な研究領域としては自然資本と地域金融。自然エネルギーを研究⇔実践する中で、小水力では、飛驒高山小水力発電㈱を設立(2015年)し、そののちも各地に法人を設立しながら全国各地で小水力発電の事業化を行う。木質バイオマスを研究する中でエネルギー利用のみならず、木材そのものの利用に高い関心を持ち、飛驒五木㈱(2015年)の立ち上げや、金融視点から東海地方で当時唯一の管理型信託会社である、すみれ地域信託㈱(2016年)の設立など理論と実践とを日々往復している。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
理事 / 鈴木 興太郎

300年以上続く老舗木材会社の跡取り候補(13代目)として1987年、名古屋市で生を受ける。2011年慶應義塾大学法学部卒業。大学卒業後は専門商社に入社し北米やヨーロッパからの建築資材輸入業務を主に5年間勤務。2016年、家業である材惣木材株式会社に戻り、2020年同社、常務取締役就任。木材流通業や木材加工業など日々の業務かたわら、グループの協体制強化にむけたHD体制の確立、環境に配慮したZEBビル建設、M&Aでの事業譲受にも携わる。日本木材青年団体連合会の59代会長を務めるなど、業界活動にも力をいれ、「木材業界の発展を通じた、よりよい社会の建設」に向けて不屈の精神をもって奮闘中。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
理事 / 川戸 健司

自然電力株式会社代表取締役。  
大学卒業後、風力発電事業会社に就職。その後、東日本大震災をきっかけに「エネルギーを通して社会課題を解決していきたい」という想いで2011年6月に自然電力株式会社を設立。「青い地球を未来につなぐ」を会社のPurpose(存在意義)とし、日本だけでなく南米、東南アジア等においても再生可能エネルギー事業を行う。特に今後は、再生可能エネルギーを通して世界中のLocal(地域)を繋ぎ、新たな価値を生み出すネットワークを創ること、そして未来への再投資を行う新たな資本循環の仕組みを構築すること を目標に掲げ、日々活動している。  
1980年、千葉県生まれ。開成高校、慶應義塾大学理工学部卒業。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
理事 / 秋山咲恵

起業家。1994年株式会社サキコーポレーション創業。最先端のエレクトロニクス製品の製造工程向けの画像認識技術を使った自動外観検査装置メーカーとして世界的ブランド構築。2018年社長退任。ソニーグループ(株)、オリックス(株)、日本郵政(株)、三菱商事(株)社外取締役(現任)。内閣府国家戦略特区諮問会議議員、経済産業省産業構造審議会委員、JETRO(日本貿易振興会)運営審議委員など公職多数。京都大学法学部卒業。京都大学経営協議会委員(2014-2020)、国立大学法人奈良女子大学 客員教授(2022.4新設の国立女子大初の工学部にて企業論担当予定)



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 石黒 功

イノチオホールディングス株式会社 代表取締役社長。公益財団法人功農支援会代表理事。豊橋市・田原市の街づくり会社(TMO)役員他を兼務。  
昭和27年愛知県田原市生まれ。家業を継ぐために薬剤師の道に進む。名古屋市立大学薬学部 修士課程修了後、薬局チェーン勤務を経て、1979年榊石黒製薬所へ入社。1991年イシグロ農材㈱代表取締役社長に就任、薬局から農業農材業界にビジネスを拡大する。2015年「イノチオグループ」として新たな一歩を踏み出し、最新技術・サービスを農業に積極的に取り入れる。創業者石黒利平が唱えた「自分の生命は、世のため人のためにあるとしか思えない」という‘利他の心’を受け継ぎ、フィロソフィを原点に、農業を総合的に支援する企業グループを目指す。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 都竹 淳也

岐阜県飛驒市長。  
1967年岐阜県生まれ。平成元年に筑波大学社会学類を卒業後、岐阜県庁に入庁。自治体国際化協会シンガポール事務所所長補佐を経て、平成11年度から梶原元岐阜県知事の秘書を務め、古田知事に交代後も平成17年度まで知事秘書を務める。  
平成20年度からは総合企画部総合政策課課長補佐に就任し、現在の岐阜県政の基礎となる「岐阜県長期構想」をまとめ上げる。次男が重度の知的障がいを持つことから、自ら志願し障がい児者医療推進室長に平成25年度から就任。医療面から障がい者を支える事業に取り組む。平成27年12月、岐阜県庁を退職し、平成28年から飛驒市長に就任し現在2期目。「元気であんな誇りを持てるふるさと飛驒市」を掲げ、みんなが楽しく心豊かに暮らせるまちの実現に向け、日々取り組んでいる。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 太田 智也

1981年愛知県生まれ。  
2005年成蹊大学経済学部経営学科卒業。大学卒業後、広告制作会社入社、プロデューサーとして広告制作に従事。  
1655年創業、江戸時代の御用商人から形を変えて現在のコングロマリット型経営に至る太田商事株式会社で専務取締役。花岡株式会社代表取締役社長、株式会社トゥディック代表取締役会長兼務。  
2009年太田商事入社後6社の譲受、1社の譲渡の事業承継に携わる。デューデリジェンスからM&A後の会社運営に関しても関与。グループで所有する不動産に対しての運用も担い、再開発事業にも携わる。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 森本 尚孝

1971年京都府生まれ。1996年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了。  
大手ゼネコンを経て、2001年三和建設株式会社入社、2008年同社 代表取締役就任。  
昭和22年の創業以来70年以上にわたり、サントリー山崎蒸溜所をはじめとした大手企業や中小中堅企業の工場・倉庫・事務所などを中心とした建築事業を行う。「働きがいのある会社ランキング」に6年連続ベストカンパニー入り、第7回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」審査委員会特別賞を受賞、2017年関西経営品質賞ブロンズ賞受賞。  
一級建築士、1級建築施工管理技士、早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員、人を大切にする経営学会常任理事。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 和井田 倅生

1940年東京都生まれ。早稲田大学理工学部卒業後、シチズン時計(株)に入社し、技術研究所にて切削加工、研削加工の研究に従事。その後、家業である(株)和井田製作所へ入社。硬脆材料を、高い品質と高能率で全自動加工する各種精密工作機械の開発や、少量多品種に対応した生産システムの構築を担当。

1995年代表取締役社長に就任。景気変動に大きく業績を左右される工作機械業界の実情から、売り上げが50%減でも利益を確保する為の利益管理や予算統制の構築を行う。2005年JASDAQ株式市場に上場。2006年代表取締役会長に就任。2015年名誉会長に就任し今に至る。高山市で小学生向けの教育プログラムを実施。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 柴沼 俊一

株式会社シグマクス・インベストメント 代表取締役社長。東京大学卒、ペンシルバニア大学経営大学院ウォートンスクール卒。日本銀行、経済産業省、マッキンゼーを経て、ファンド投資先企業再生に携わる。09年シグマクス入社後は事業開発支援のほか、投資責任者としてベンチャー投資等に従事し、現在に至る。

ライフワークとして、人口減少・経済縮小する地域社会が未来社会モデルとなるために自律分散型インフラをどう創るか、農と食をどう作り変えるか、という取り組みを各地で支援。規模の経済から範囲の経済、金融資本から金融・共感・社会共通資本の調和への転換を通じて、持続的な社会形成を目指す。また、22世紀社会をどう創るかをテーマに多様なメンバーと連携し情報発信。



一般社団法人 飛驒高山大学設立基金  
評議員 / 井上 正

1970年岐阜県高山市生まれ。

1995年、株式会社井上工務店に入社。国指定重要文化財旧若山家住宅解体、移築復元工事に現場代理人として約3年間従事。以後公共工事等多くの現場を担当。その後、「地域社会の資産価値最大化」を経営理念とし、2003年(有)飛驒プロパティマネジメント(現 すみれリビング(株))、2005年(株)飛驒ITアセット(現 すみれ地域信託(株))設立、各代表取締役社長に就任。現在すみれグループ(5社にて構成)代表。

2007年(社)高山JC理事長、2009年(社)日本JC岐阜ブロック協議会会長、2010年(公社)日本JC財政審査会議議長を歴任。

現在、(公財)日本賃貸住宅管理協会岐阜県支部長、ちんたい協会岐阜中央支部長、全管協東海支部役員、自民党岐阜県ちんたい支部長を務める。



一般社団法人 飛騨高山大学設立基金  
監事 / 小谷 祥

1979年生まれ。岐阜県飛騨市(古川町)出身。弁護士。経営学博士。  
2003年、各専門分野の士業・コンサルタントが所属する名南コンサルティンネットワークに入所。2014年に同ネットワークの弁護士法人名南総合法律事務所代表に就任。企業法務・経営法務全般に携わり、特にファミリービジネスの事業承継、M&Aなどの案件を多く手掛ける。学校法人等の教育機関の顧問のほか、南山大学法科大学院のアドバイザー、名城大学理工学部(環境法)の講師なども歴任。事業承継支援ファンドの運営会社である株式会社未来Linkパートナーズの取締役なども務める。



一般社団法人 飛騨高山大学設立基金  
監事 / 高杉 勝裕

平成7年に試験合格後、監査法人にて監査業務、コンサルティング業務に従事。  
平成16年からは一般事業会社(金融業)の営業部門にて法人金融やM&Aアドバイザーなど、会計・税務の枠を超えた業務に従事。平成20年からは中堅監査法人にて主に企業再生やM&Aアドバイザー業務に従事。平成24年に独立開業。現在に至る。

過去100件以上の中小企業再生案件に関与してきたほか、様々な規模・業種の企業財務をみてきた経験を活かし、顧客のさまざまな要望に応えることができる会計士・税理士を目指して、日々業務に取り組んでいる。



一般社団法人 飛騨高山大学設立基金  
監事 兼 CFA / 古里 圭史

1979年生まれ。岐阜県飛騨市(古川町)出身。公認会計士・税理士。早稲田大学卒業後、株式会社スクウェア・エニックスを経てデロイトトーマツグループの監査法人に入所。2012年10月に地元、岐阜県飛騨・高山にUターンし、地域密着のコミュニティバンクである飛騨信用組合に入組。同組合において「育てる金融構想」を掲げ、クラウドファンディングや地域キャピタル会社の設立など、新しい金融手法を活用した資金供給の仕組み構築に注力。2017年には電子地域通貨「さるぼぼコイン」を手掛け、ローンチから4年でユーザー数、加盟店数ともに地域シェア40%超のサービスに。

現在は自身のアカウンティングファームの運営を行いながら、慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任准教授を務める。

飛騨高山大学(仮称)の学びの概要について

～詳細は変更の可能性有～

2022年3月4日現在

## 経済学部

既存の資本主義を学ぶだけではなく、地域の文化や自然資本も取り入れ、実践を重んじ、新しい地域社会の在り方を共創する。

## 共創学部 Co- Innovation

ニューノーマルにおける高等教育の姿を見据え、学際的・リベラルアーツ的な側面で検討を進めた。詳細については2022年3月に予定している実証実験の報告会を通じて公表。

**STEAM**  
教育

**S**cience  
科学

**T**echnology  
技術

**E**ngineering  
工学

**A**rt  
芸術

**M**athematics  
数学



## メソドロジー1:学びの地域拠点の創設による交流

飛騨高山エリアを核に全国各地域(全11カ所)が繋がり、多様な立場(学生/大学・経営者/事業承継関係者・社会人・行政・政治)が集い、学びあい、新たな価値を生む場を提供予定。また地域人材の総合拠点として、各拠点から様々な企業・行政等へ巡ることを目標とします。

## メソドロジー2:ボンディングシップ×セオリーアクティベーション×ホットダイアログ

インターンシップに“**地域との絆(Bond)**”を取り入れ発展させた「ボンディングシップ(双方向の絆づくり)」と、既存理論の学習に加え、生きた学問を習得する「セオリーアクティベーション(**理論の活性化**)」、他者との議論や対話の中で自己を育む「ホットダイアログ(**議論・対話**)」の掛け合わせによる新しいカリキュラムを展開予定です。

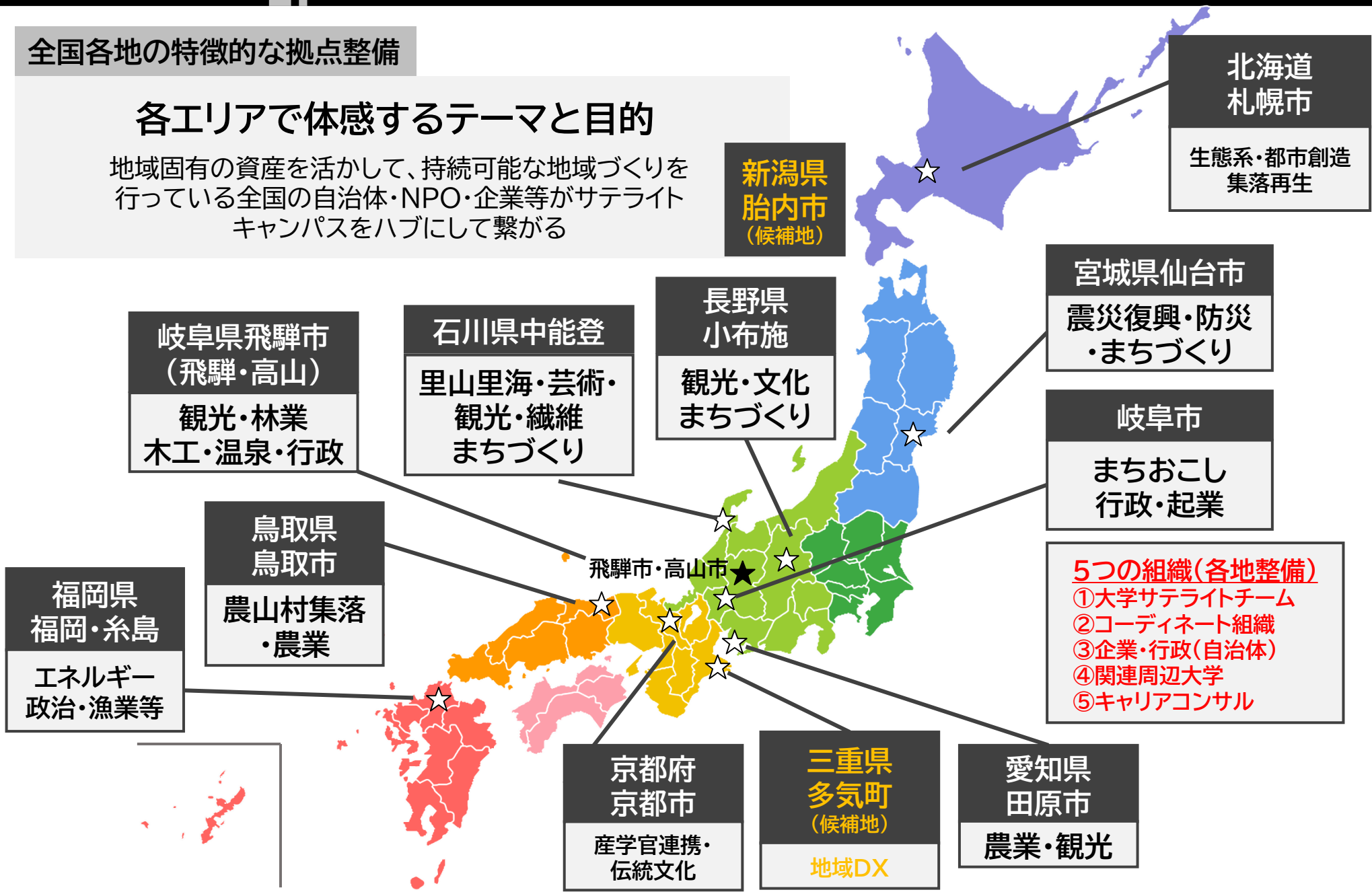
## メソドロジー3:海外の各地域の先進的な地域研究・共創事例も学ぶ

海外の先進研究を学ぶことは、世界スタンダードの視座を手に入れることであり、これから地域で活躍する人材に必要。農業、観光、文化、公共施設管理、医療、エネルギー、林業など、あらゆる地域の課題に対して**海外の地域研究・事例から学ぶ機会**を提供予定。

## 全国各地の特徴的な拠点整備

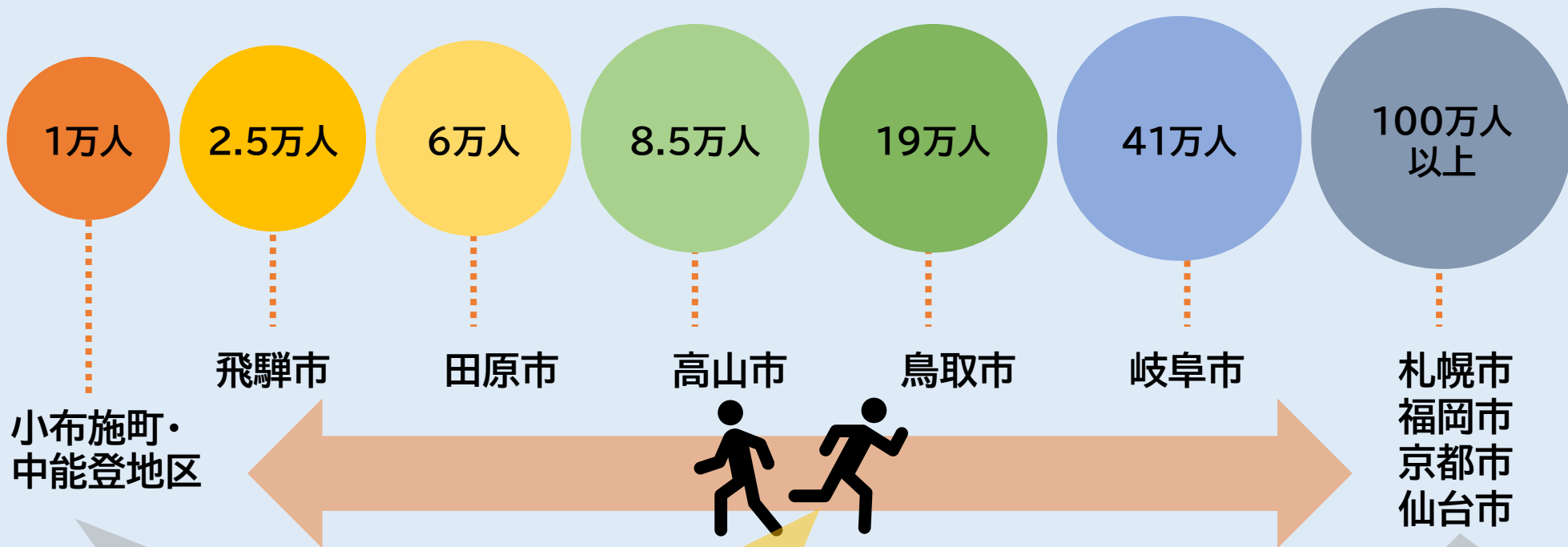
### 各エリアで体感するテーマと目的

地域固有の資産を活かして、持続可能な地域づくりを行っている全国の自治体・NPO・企業等がサテライトキャンパスをハブにして繋がる



- 5つの組織(各地整備)**
- ①大学サテライトチーム
  - ②コーディネート組織
  - ③企業・行政(自治体)
  - ④関連周辺大学
  - ⑤キャリアコンサル

★人口動態による整理(2021年6月現在)



地域型サテライトの魅力

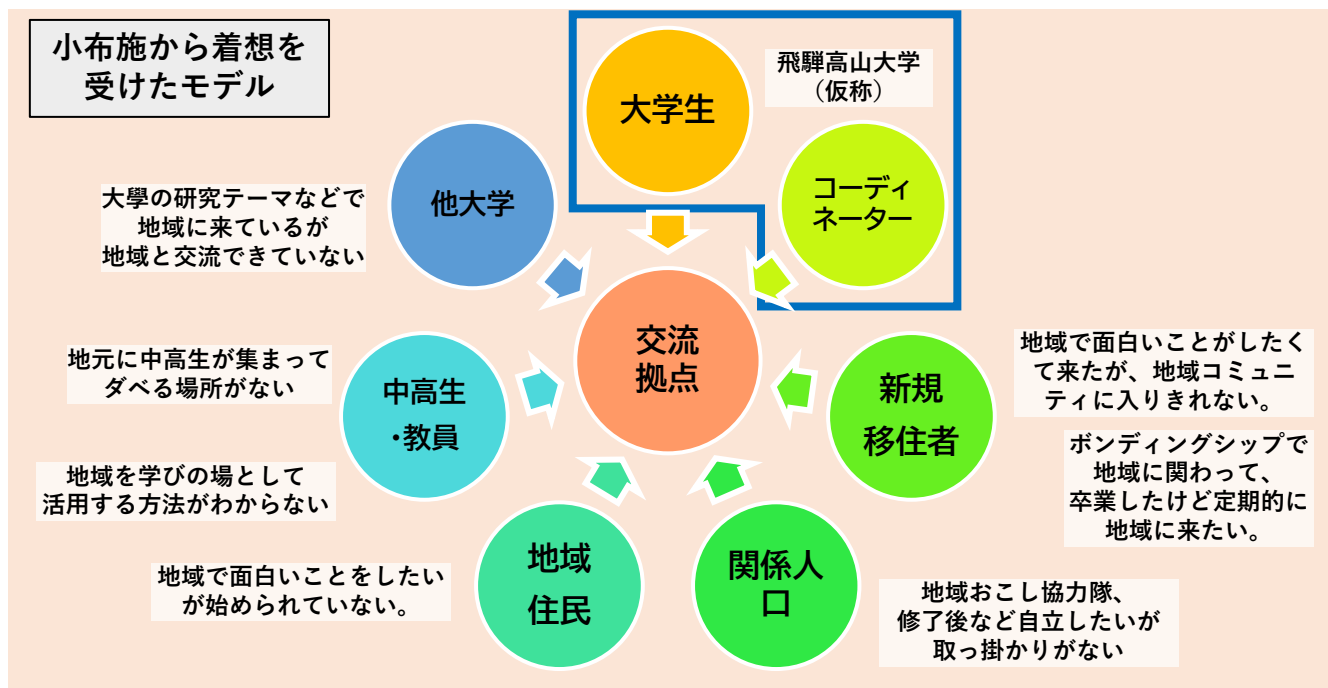
地域特有の産業や魅力、地域課題をテーマにして、フィジカルな体験とともに学ぶことができる。

学生にとっての魅力

地域行政や農業、観光など同じテーマでも人口動態によって手法や課題が異なることを実体験できる。

都市型サテライトの魅力

多種多様な人がリアルに交じり合い集うことができる。(ターミナル駅に整備を想定)



宿泊 + 交流【合体】タイプ

宿泊 + 交流【分離】タイプ



# ■ “Co-Innovation（共創）” スパイラルの地域におけるビジョン

2022年3月時点（案）

Co-Innovationが湧き上がるスパイラルを  
大学が原動力となり推進する！！

## 地域

### “Co-Innovation” の条件

- ・変化し続ける
- ・誰もが参加できる
- ・プロセスがオープン

特定の地域での成功事例が  
分析され他地域でも地域  
独自で普及・拡大していく

社会を良い方向へ  
変えようとする  
インフォーマルな交流の場

1  
社会的課題の認識

2  
少数のイノベーター  
の誕生（自覚）

共創

6  
賛同者の輪の拡大

3  
具体的なアイデアの  
確立

専門性を持つ者や様々な  
コミュニティ交流を  
通じた問題意識の共鳴  
（ソーシャルラーニング）

事業に正当性が付与され、  
自分達も価値を再認識し  
さらにエンパワーされる

5  
パイロットケースの  
立ち上げ

4  
ビジョンの  
共有と対話（調和）

地域資源の見直しや、  
従来への事業活動に対する  
新しい意味を見出す

実現に向けた障壁を  
乗り越えるために  
ステークホルダーが  
エンパワーされる。

政策的支援・制度的変化

共創する  
コミュニティ



地域企業・  
自治体



地域の産業



幼保・小学  
中学・高校



研究機関



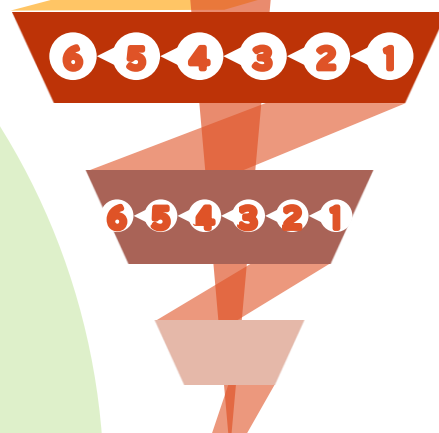
国際機関・  
国際社会



市民



全国の地域同士の交流により  
Co-Innovationがもっと大きくなねりとなる。



ボンディングシツプ・中高大連携

実証実験について

～2021年6月14日～2022年9月内～



飛騨市で行われた  
名刺授与式の様子

### ■ 実証実験の目的

- ① メソドロジーを通じた教育効果を明らかにし、  
検証結果を、開学後の教育内容に活かす。
- ② オリジナルの品質基準シートの効果検証と、  
大学におけるボンディングシップにおける認証制度  
の確立や全国各地との連携のフォーマット整備
- ③ コーディネーターやキャリアコンサルタント等を  
はじめとする大学に関わる運営メンバーの全国レベ  
ルでの連携とノウハウの蓄積

### ■ プロジェクト実施先

|          |     |         |
|----------|-----|---------|
| ・北海道札幌周辺 | 2PJ | 全日制学生2名 |
| ・石川能登    | 1PJ | 全日制学生1名 |
| ・岐阜県飛騨市  | 1PJ | 全日制学生1名 |
| ・岐阜県各務原市 | 1PJ | 全日制学生1名 |
| ・岐阜県岐阜市  | 1PJ | 社会人学生2名 |
| ・福岡県福岡市  | 1PJ | 社会人学生1名 |

合計 7PJ 全日制5名 社会人3名



- ・今年度は、飛騨市内の中高生に向けて、ヒアリング調査を実施。
- ・来年度以降、全国地域拠点を設ける各地の自治体様の中高生と
- ・飛騨市の中高生が全国各地の拠点と連携する形を検討予定。
- ・中学生の内に地域における実践への関心を高め、高校生から実践を始める。



本校について

プレス発表資料より引用:2020年6月5日に住民説明会開催

- 設置予定地 飛騨市古川町宮城町地内（旧北陸電気工業古川工場跡地）
- 面積 8919.76 m<sup>2</sup>（登記簿上）  
《参考》若宮駐車場の東洋側と線路側の合計が 9098.58 m<sup>2</sup>
- 所有者 北陸電気工業株式会社（管理者：北陸興産株式会社）  
※大学設立基金と同社では購入に向けた調整が進行中





@David Vintiner

## 設計者 藤本 壮介(ふじもと そうすけ)

1971年北海道生まれ。

東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。

現在、東京とパリに事務所を擁し、国内外で幅広く活動を展開している。

2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞(ラルブル・ブラン)に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2020年、2025 日本国際博覧会の協会事務局会場デザインプロデューサーに就任。2021年には大分空港海上アクセス旅客ターミナル建設工事基本・実施設計業務 最優秀者に選定される。

主な作品に、白井屋ホテル(2020年)、L'Arbre Blanc(2019年)、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013 (2013年)、House NA (2011年)、武蔵野美術大学 美術館・図書館 (2010年)、House N (2008年) 等。

活動初期より一貫して、プライベートとパブリック、内と外、自然と人工など、一見相反する要素の「あいだ(間)」を意識した建築設計を実践している。特に近年は、建築物の設計に留まらず、建築、街、ランドスケープの溶け合いを意識したプロジェクトにも積極的に参加し、建築と社会との関係、公共性や多様性を志向した設計行為を通じ、建築の新たな可能性を探っている。

### 【社会的活動】

大阪府及び大阪市スーパーシティアーキテクト

特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ、副代表理事

一般社団法人日本建築材料協会、特別顧問

旭川市景観アドバイザー









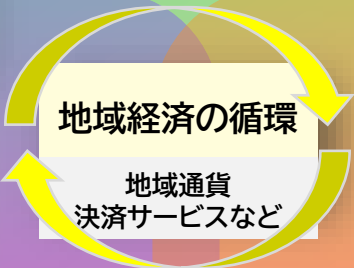
古川駅東について  
～共創拠点の整備～  
全日制1年目の学び



# より良く生きる未来への希望

## 経済・産業への活力

**文化・アート**  
 空白地の有効活用  
 建築による場の創造  
 エリア全体の回遊性向上



**働く場所の創出**  
 大学と産業界の連携  
 地域全体の活力↑

**地域経済の創出**  
 地域資本の様々な活用

**脱炭素**  
 発電から交通モビリティ  
 まで含めた脱炭素の実現

**地域産業の高度化**  
 農業・林業・漁業等への  
 デジタル技術の活用など

すべての基盤に  
 デジタル

## 自然・文化・ソーシャルキャピタルの活用

**共創**  
 Co-Innovation  
 Architecture  
 Design

**教育**  
 価値創造の源泉  
 中高大連携による地域  
 教育の底上げ

**行政・福祉**  
 公共サービスのDX  
 デジタルインフラ整備など

**医療**  
 医療管理体制の構築  
 スマート医療など

**健康・食**  
 Well-Being、スマート  
 ヘルスケアなど

**防災**  
 安心・安全な  
 暮らしづくり

**社会基盤**  
 便利で快適な  
 まちづくり  
 (建築や土木等)

## 安心安全で 便利な暮らし

人口&地域経済の  
 流出の抑止

**地域ブランド  
 の発信**  
 地域資本の見直し  
 発信力の向上など

**地域を超えた  
 絆づくり  
 先進事例の伝播**

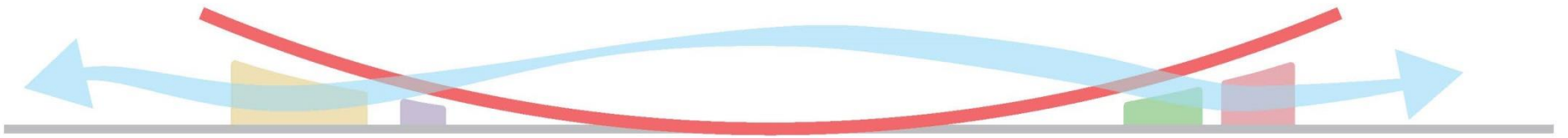
**関係人口↑  
 地域外貨獲得**  
 多目的ツーリズム  
 回遊性の向上

## 他地域

この未来像をつくる人材を  
 飛騨高山大学(仮称)が輩出する。



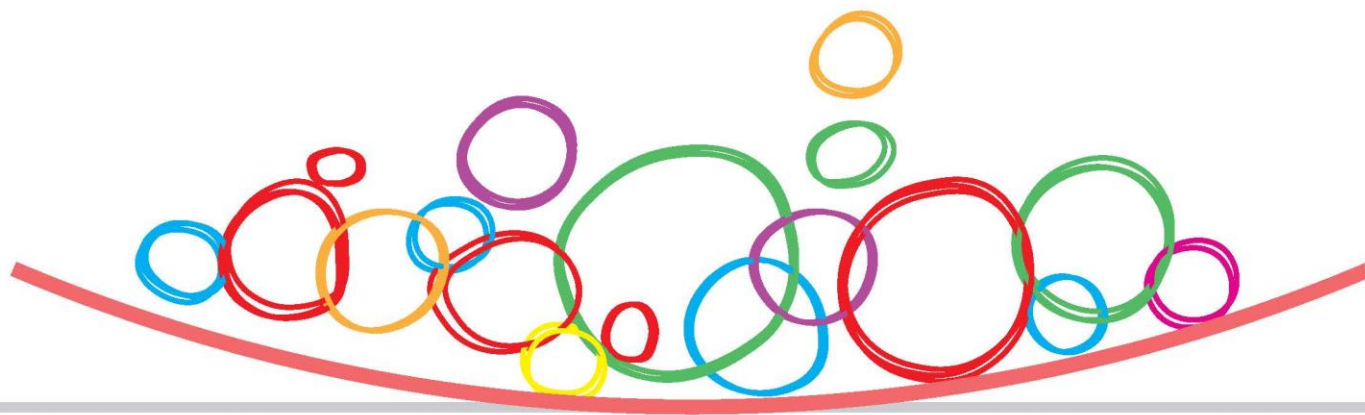
## 盆地のような広場



歩きまわるのが楽しい路地空間

街へと開かれる

さまざまな活動がひとつにつながる大屋根広場



多様なものが響きあう場











# 1階平面図 + 配置図



飛騨に広がる  
自然体験の通過拠点

飛騨高山大学(仮称)  
と連携した教育  
地域を巻き込んだ  
学びの場の創出

F\_気多若宮神社

建設予定地

飛騨に広がる  
観光地への案内

A\_飛騨高山大学(仮称)

B\_朝霧の森(車で15分)

E\_池ヶ原湿原(車で1時間)

市内中心地への誘導  
飛騨古川の文化体験

C\_飛騨の匠文化館

D\_瀬戸川と  
白壁土蔵街

県道472号

飛騨市図書館

飛騨市役所

飛騨市文化  
交流センター

飛騨市古川町公民館

飛騨市美術館

飛騨古川まつり会館

飛騨古川駅

日光寺

岐阜県立飛騨古城  
特別支援学校

ひだ森のめぐみ

増島城址

飛騨市立  
古川小学校

林昌寺

至・飛騨国府駅



A\_飛騨高山大学(仮称)

B\_朝霧の森

C\_飛騨の匠文化館

D\_瀬戸川と白壁土蔵街

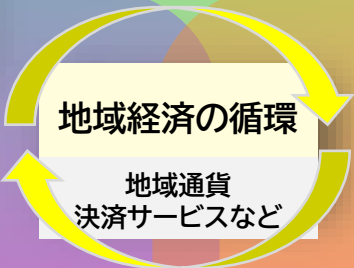
E\_池ヶ原湿原

F\_気多若宮神社

# より良く生きる未来への希望

## 経済・産業への活力

**文化・アート**  
 空白地の有効活用  
 建築による場の創造  
 エリア全体の回遊性向上



**働く場所の創出**  
 大学と産業界の連携  
 地域全体の活力↑

**地域経済の創出**  
 地域資本の様々な活用

**脱炭素**  
 発電から交通モビリティ  
 まで含めた脱炭素の実現

**共創**  
 Co-Innovation  
 Architecture  
 Design

**地域産業の高度化**  
 農業・林業・漁業等への  
 デジタル技術の活用など

すべての基盤に  
 デジタル

**教育**  
 価値創造の源泉  
 中高大連携による地域  
 教育の底上げ

**行政・福祉**  
 公共サービスのDX  
 デジタルインフラ整備など

**医療**  
 医療管理体制の構築  
 スマート医療など

**健康・食**  
 Well-Being、スマート  
 ヘルスケアなど

**防災**  
 安心・安全な  
 暮らしづくり

**社会基盤**  
 便利で快適な  
 まちづくり  
 (建築や土木等)

**安心安全で  
 便利な暮らし**

人口&地域経済の  
 流出の抑止

**地域ブランド  
 の発信**  
 地域資本の見直し  
 発信力の向上など

**地域を超えた  
 絆づくり  
 先進事例の伝播**

他地域

**関係人口↑  
 地域外貨獲得**  
 多目的ツーリズム  
 回遊性の向上

## 自然・文化・ソーシャルキャピタルの活用

この未来像をつくる人材を  
 飛騨高山大学(仮称)が輩出する。

## ●実証実験から許認可提出まで

2021年6月14日～ 7プロジェクト実証実験開始 →2022年3月26日 実証報告会予定

※3月26日に大学の詳細含めて、発表の予定です。

2022年4月～9月 実証実験の検証及び、申請書類確定、今回の実証以外の地域での実験

2022年10月末 文部科学省へ大学新設認可に係る書類提出(2023年6月一部有)

## ●許認可関係

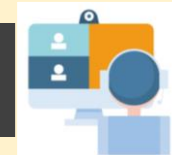
### ①学校法人の設立認可

－文部科学大臣の認可が必要。

### ②大学設置の認可

－大学新設認可に係る関係書類の提出時期は、開設年度の前々年度の2022年10月31日までとし、概ね開設年度の前年度の夏～秋頃に認可が下りる予定。

－2024年4月開校の開校を目指し、準備を進めます。



共創セッション

参加費 | 無料

## Co-Innovation Conference 2022

飛騨市で実施した  
ボンディングシップの成果発表含む  
【主催】一般社団法人 飛騨高山大学設立基金

3/26 (土) | 13:00 - 15:30 終了予定  
飛騨市役所 大会議室

guest member

宮田 裕章 氏  
仮称 飛騨高山大学  
学長候補

南田 修司 氏  
NPO 法人 G-net  
代表理事

都竹 淳也 氏  
飛騨市長

テーマ別分科会

## イベント概要

対象: 大学設立や学生の受入にご関心ある全国の事業者様

1. 大学の正式名称、ロゴイメージ、コンセプト等を一般向けに初公開
2. 独自の仕組み「ボンディングシップ」の紹介と実証実験の報告
3. 大学生の活動が、地域や社会、企業にとってどのような価値を生み出していくのか深く掘り下げるテーマ別分科会

▼詳細 & 申込▼



寄附について

①一般社団法人直接のパターン  
もございます。

飛騨高山大学 (仮称)

設立寄附金趣意書

一般社団法人 飛騨高山大学設立基金

# 飛騨市ふるさと納税（個人版）のご案内

## ふるさと納税とは？

自分が生まれ育った「ふるさと（都道府県や市区町村）」や、応援したい地域に納税（寄附）することで支援する制度。ふるさとなどに対して寄附を行った場合に2,000円を超える部分について、個人住民税の概ね2割を限度として、所得税とあわせて全額を控除する仕組みです。寄附をする先は、出身地や居住地等に限定されず、都道府県や市区町村であればどこでも構いません。

### 寄付金の使途に 飛騨高山大学（仮称）への支援が選択できます



飛騨高山大学(仮称)は令和6年4月飛騨市内での開学を目指しています。

（2022年10月文部科学省へ大学新設認可申請予定）  
飛騨市本校キャンパスをはじめ、地域で学ぶ拠点を全国11カ所に開設予定です。

大学教育を通じて、地域の実践に関心の高い学生が地域に根付いた拠点で学び、混ざりあうことで「地域の元気・価値・成長を創る場所」となり、持続可能な地域づくりに貢献することを構想しています。

寄付金の使い道に「飛騨市での私立大学立地への支援」をお選びいただくことで、こちらの事業をご支援いただけます。  
ぜひ皆さん応援をよろしくお願いいたします！

## ふるさと納税5つのポイント

### ① 飛騨の美味しい特産品が届く！

飛騨市では5千円以上寄付をしていただいた方に地域の特産品をお届けして感謝の気持ちをお伝えしています。

### ② 税が軽減される！

例えば3万円のふるさと納税をして、2万8千円の税金が控除されることも！（控除額の上限は個人の収入などによって変動します。詳しくはお住まいの自治体の税務課・税務署にご確認ください。）

### ③ 好きな「ふるさと」を自分で選べる！

「ふるさと」に定義はありません。出身地、お世話になった地、共感できる地、応援したい地、どこでもOK！

### ④ 複数の「ふるさと」を選べる！

1つの地域に限定せず、複数の地域を「ふるさと」に選ぶことができます。

### ⑤ 使い道を指定できる！

飛騨市では、地域振興、福祉、弱者支援、こどものこころクリニック、教育、文化、環境保全、東大連携の10のメニューから指定できます。

※詳しくは飛騨市公式観光サイトをご確認ください。

## 飛騨市ふるさと納税お申し込みサイト

### 飛騨高山大学（仮称）設立に係る支援 特集ページ



楽天ふるさと納税



ふるさとチョイス



ANAふるさと納税



ふるなび



auPAYふるさと納税



# これまでの寄付実績

## 飛騨神岡宇宙最先端科学パーク構想



ひた宇宙科学館  
カミオカラボ



- 事業期間 平成29年度～平成30年度
- 総事業費 2億9,646万円
- 寄付金額 1億4,860万円
- 寄付企業 三井金属鉱業株式会社、飛騨信用組合、大垣共立銀行株式会社、三井金属エンジニアリング株式会社、三井不動産株式会社、日本レチボン株式会社、株式会社ハローワールドディングス ほか10社（敬称略）

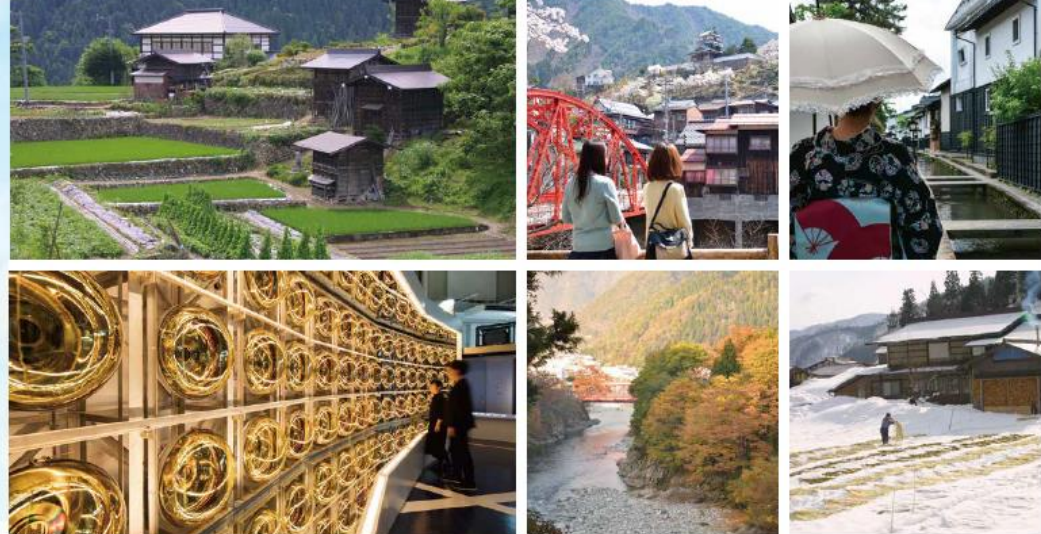
飛騨市神岡町には、「スーパーカミオカンデ」をはじめとした最先端の宇宙物理学研究施設が集積し、これまでに2名のノーベル物理学賞受賞者が輩出されています。本プロジェクトでは、東京大学宇宙線研究所の連携協力のもと、世界をリードする神岡での研究内容を紹介する「ひた宇宙科学館カミオカラボ」を整備し、最先端の宇宙物理学の魅力を広く発信することで、科学と社会の新しい関係性をつくるとともに、地域のスランド化に取り組んでいます。オープン初年度の来場者は13万人を突破し、寄付企業様との新たなパートナーシップも生まれるなど、官民連携の取組として大きな成果を挙げており、内閣府特命担当大臣による令和2年度「地方創生応援税制に係る大臣表彰（地方公共団体部門）」を受賞しました。

## オリジナル映像制作プロジェクト



- 事業期間 令和2年度
- 総事業費 260万円
- 寄付金額 260万円
- 寄付企業 日本レチボン株式会社、飛騨信用組合、ニスロファーマ株式会社、株式会社喜多村（敬称略）

飛騨市が誇る古川祭をテーマとした東海テレビ新春エリアドラマ「いってきます！～岐阜・飛騨 古川やんちゃ物語～」の制作を支援しました。作中のナレーションには、飛騨市河合町出身の中日ドラゴンズ根尾昂選手にもご協力をいただきました。



岐阜県飛騨市

企業版  
ふるさと納税



### その他の寄付メニュー 飛騨市と一緒に始めませんか？

企業の皆様との協働による新たなプロジェクトを募集します。お気軽にご相談ください。

寄附を検討されている企業ご担当者様は、下記までお問い合わせください。

○お問い合わせ先  
飛騨市役所 企画部 総合政策課

TEL : 0577-73-6558

Mail: sougouseisaku@city.hida.lg.jp

〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2-22



岐阜県飛騨市  
企業版ふるさと納税  
特別サイト



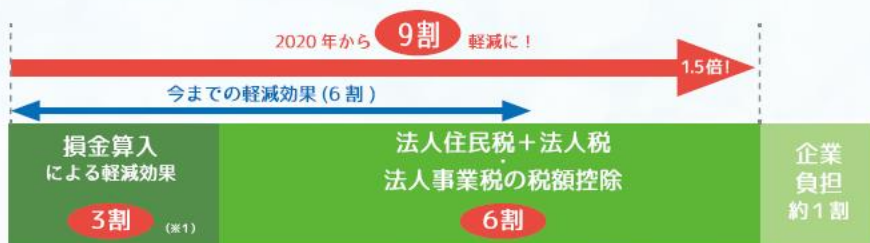
# 企業版ふるさと納税って？

企業の皆様が、寄附を通して地方公共団体の行う地方創生の取り組みを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられる仕組みです。実質的な企業の負担は約1割で飛騨市の地方創生に資するプロジェクトの応援ができます。

## 制度の概要

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除をする仕組みです。

この度、地方創生のさらなる充実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める視点から、制度が大幅に見直されました。これにより、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が約1割まで圧縮されるなど、より使いやすい仕組みとなりました。



(※1) 企業が地方公共団体に寄附した場合は、その全額が損金算入されるため、寄附額の約3割(法人実効税率)相当額の税の軽減効果があります。

## 企業にとってのメリット

**社会貢献**  
企業としてのPR効果  
SDGsの達成など

Point **01**

飛騨市との  
関わりの構築

Point **02**

地域資源などを活かした  
新事業展開

Point **03**

## 制度の流れ



### 制度活用にあたっての留意事項

- 1回あたり10万円以上の寄附が対象となります。
- 寄附を行うことの代償として経済的な利益を受け取ることは禁止されています。
- 本社や主たる事業所が飛騨市内に存在する企業については、飛騨市に対して寄附を行うことができません。

# 飛騨市の寄付メニュー

## 映像制作活用プロジェクト



目標金額 3,000万円  
SDGs目標



映像作品の舞台として描かれる地域には「聖地巡礼」と称して作品のファンが多数訪れ、シティーフロモーションにつながる施策として注目を集めています。飛騨市においても、積極的にロケを誘致し、地域への直接経済効果、関係人口の創出、効果的な情報発信に取り組んでいます。また、映像作品を通して地域の魅力を再発見することでシビックプライドの醸成を図り、持続可能なまちづくりを目指します。

## 飛騨高山大学(仮称)の設立支援



目標金額 70億円  
SDGs目標



飛騨市は豊かな自然や文化に囲まれ、人口減少の中でも明るく前向きな人々の暮らしが息づいています。このかけがえのない私たちのまちを未来へとつなげていくため、市内での四年制私立大学「飛騨高山大学(仮称)」の令和6年度開校を目指す一社飛騨高山大学設立基金との連携・支援協定を締結し、大学設立基金が掲げる地域と共創する持続可能な未来づくり、地域の元気・価値・成長の創造に向けて、力を合わせて取り組みます。

## ソーシャルビジネスの創出支援



目標金額 1億2,600万円  
SDGs目標



飛騨市では、次々と未知なる課題が生まれる人口減少時代の中でも、問題を前向きに捉え、暮らしやすさへ転換していくことで、誰一人取り残されず、互いを家族のように支え合えるまちづくりを目指しています。こうした発想から、民間企業の経済活動を社会課題の解決へと結びつけるソーシャルビジネスの考え方に注目し、ふるさと納税を原資として、地域課題の解決に資するビジネスに取り組む事業者を支援する制度を創設しました。

## 天生の森と人のプロジェクト



目標金額 300万円  
SDGs目標



飛騨市河合町の「天生の森」には、高山植物が咲き乱れる高層湿原、広大なスナの木原生林など雄大な自然が広がっています。多くの人がこの地を訪れ、素晴らしいさを体感できるのは、この森が地域の自然や文化に精通した人々によって、大切に守り育てられてきたからに他なりません。この豊かな環境を次世代につなぐため、生態系に配慮した順応的な保全管理に取り組み、人の手によるサステナブルな森づくりを目指します。

## 薬草ビレッジ構想の推進



目標金額 500万円  
SDGs目標



飛騨市は約250種の有用植物が自生する、全国でも類を見ない薬草の宝庫です。この豊かな地域資源を市内外の方より多くの方に享受していただけるよう、気軽に薬草に親しみ、体験できる観光交流産業としての育成に官民協働で取り組んでいます。また、薬草が持つ自然の力を普段の生活に取り入れることで、日々楽しく健康に暮らすことができるまちを目指しています。

## 飛騨市ってどんなところ…？

飛騨市は、岐阜県の最北端に位置し、映画「君の名は。」のモデルにもなった美しい里山風景が広がる自然豊かな地域です。市街地には、飛騨の匠の技を随所に取り入れた伝統的な町屋が残る美しい街並みがあります。

飛騨市は、全国に先駆けて人口減少が始まり、今もなお進行している「人口減少先進地」です。この人口減少という最大の課題を正面から受け止め、人口が減ることを前提とした新たな社会モデルの形成に向けて、常に前向きで、この街なら楽しく住めるという「氣」に満ちた「みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち」の実現を目指しています。

○ティザーサイト

<https://hidatakayama-university.jp/>



○各種SNSでも配信

- ✓ Facebook <https://www.facebook.com/hidatakauniv>
- ✓ Instagram [https://www.instagram.com/hidataka\\_univ/](https://www.instagram.com/hidataka_univ/)
- ✓ Twitter [https://twitter.com/hidataka\\_univ](https://twitter.com/hidataka_univ)

●お問い合わせ： 大学事務局 [all@u-hida-kikin.jp](mailto:all@u-hida-kikin.jp)

